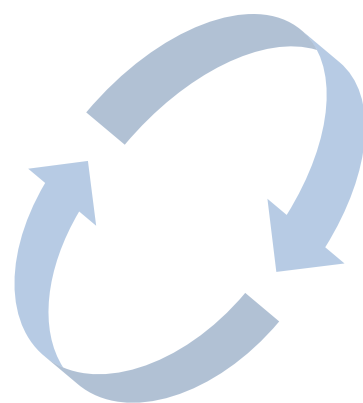


考え合い表現し合う 社会科の指導

第5学年



目次

はじめに ……………	1
相手意識をもち、地図を用いて国土の位置や広がりを表現する活動 ……………	2
緯度と標高の高低差による気候の違いから問題意識をもつ活動 ……………	6
問題意識をもち、米づくり農家の仕事の意味を考えながら調べる活動 ……………	10
日本の水産業に対する疑問から学習問題をつくり、予想から学習計画を立てる活動 ……………	14
単元の学習をキーワードで振り返り、自動車生産における工夫や努力をまとめる活動 ……………	18
自動車の海外生産増加について、グラフから問題意識をもって調べる活動 ……………	22
グループで複数の資料をもとに日本の工業生産の強みと課題を共有し、考えを深める活動 ……………	26
複数の資料を比較・関連付け・総合し、多面的に社会的事象を捉え、考えを深める活動 ……………	30
情報の伝達と影響について学習の見通しがもてる活動 ……………	34
調べる視点を明確にして表にまとめることで、様々なメディアの特色を考える活動 ……………	38
発信者・受信者の立場で、情報の活用のあり方考える活動 ……………	42
自然災害への対策を比較・分類することで、防災や減災について考えをまとめる活動 ……………	46

はじめに

第5学年の社会科は、国土学習であり、産業学習であり、情報や防災など最新の社会事象を扱う学習でもあります。また、本格的に教科書や地球儀、地図帳、統計資料などを使う学習でもあります。そのため、内容・方法ともに、学習との距離感が生じやすく、児童の興味・関心の差も激しくなる傾向があります。教師もまた、しかりであるといえます。そこで、考え合い表現し合う学習活動を成立させるためには、①既習を大いに活用する。②本質を損なわない範囲で、数値などを具体的な事例に置き換える。③いつも地図帳を手元に置き、位置などを確認する。④算数科と連携して度量衡、百分率を早期に使えるようにする。⑤新聞などを用い、社会事象に関心をもたせる。そうしたことが大切になります。

問題解決的な学習過程に基づいて留意点を示すと、「つかむ」段階では、資料の提示方法を工夫して疑問を出させ、同時に疑問に対する答えを予想させます。そして、疑問から学習問題を、予想から学習計画をつくるなど、解決の見通しを立てさせます。この段階では、桜の開花時期や魚の値段の「違い」などに着目させると効果的です。

「調べる」段階で最も大切なことは、闇雲に書かせないことです。まず、自分自身で資料を読み取らせませす。それをもとに友達と話し合って意味を考えさせます。そして終末では、調べて分かったことを小まとめとして書く、図や表にする、キーワードにするなど、調べっ放しにしないことが肝要です。

「まとめる」段階では、もう一度学習問題に立ち返り、問題に正対する答えを出すようにします。その際、各時間のキーワードを一覧にしたり、図式化したりすると、問いに対する答えとして適切な形にまとめやすくなります。

大単元ごとに位置付く「深める」段階では、小単元の学習を振り返り、よりよい社会のあり方などを発展的に考えさせます。その際、新たな資料を投入したり、グループで教科書やノートを持ち寄り、小単元のまとめを突き合わせたりすることなどが有効です。

教科書を活用する上で大切なことは、その特質をつかむことです。①教科書に何が、どんな形で掲載されているかを読み取ります。特に、本文は、全ての児童が具体的な意味を理解し、自分の言葉で表現できるまで教材研究を行うことが大切です。②教科書には、学習指導要領が求めている以上の内容が記載されていることが多いので、学習指導要領をもとに、指導の時間と内容の軽重をつけることも必要です。③教科書の内容は、あくまでも一つの事例です。学習問題や学習計画など、授業者と学級の実態に合わせた形に応用して、考え合い表現し合う学習を実現していきたいものです。

この企画では、上述のような留意点をふまえつつ、教科書を活用しながら考え合い表現し合う活動を充実させるにはどうすればよいかを考え、提案しています。日々の授業の参考にしていただければ幸いです。

考え合い表現し合う社会科の指導（第5学年）編集委員会

つかむ

調べる

まとめる

深める

～相手意識をもち、地図を用いて国土の位置や広がりを表現する活動～

1. 小単元名『日本は世界のどこにある？』

(教科書：『小学社会 5 上』 p.6～13／学習指導要領：内容（1）ア)

2. 小単元の目標

地図や地球儀、資料などを活用して調べ、日本の国土の位置や領土、世界の主な大陸や海洋、主な国の名称と位置、主な国の国旗について捉えさせる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
地図や地球儀を活用して、日本の国土の位置や広がり、近隣の国々と領土、世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置について関心をもって調べようとしている。	世界の国々・大陸・海洋の名称や方位などを用いて、日本の国土の位置や広がりについて適切に表現している。	地図や地球儀を使って、日本の国土の位置や領土、世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置についての確に読み取ったり、おおまかな方位や距離を確かめたりしている。	日本の国土の形や位置、広がり、近隣の国々との位置関係、世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置がわかるとともに、領土をめぐる問題や国旗の大切さについて理解している。

4. 指導にあたって

(1) 教材について

学年最初の小単元として、資料活用の基本的な技能を身につけさせたい。特に、地球儀と地図の活用については、今後の学習でも様々な場面で必要となってくる。球体としての地球を歪みなく表現できる点が地球儀の最大の長所であることをふまえ、丁寧な指導を心掛けたい。また、地球儀はなるべく多くの数を確保し、多くの子どもに触れさせるようにしたい。

また、本小単元では、日本の国土の位置や領土、世界の主な大陸や海洋、主な国の名称と位置、主な国の国旗について捉えさせることが目標となる。4年生での学習から大きく視点が切り替わるため、丁寧な指導を心掛けたい。

(2) 指導上の工夫・留意点

本小単元では、地球儀を積極的に活用していく。よって、授業中だけではなく、なにか気になったときはすぐに地球儀で確認できるように教室に常設し、児童が地球儀や地図に親しめる環境づくりに努めることが大切である。

また、5年生の社会科の学習として最初の小単元でありながら、覚えなければならない基礎的・基本的語句が非常に多く、児童にとっては非常に難しいと考えられる。よって、地図帳や地球儀を活用し、ペアやグループなどで簡単な地図を描いたり、白地図での着色をしたりする作業的な活動を行う。そのように、皆で確認しながら学習を進めていくことで、苦手意識をもたずに今後の社会

科の学習に取り組ませていきたい。また、世界から日本を捉えていく小單元ではあるが、常に「日本」という変わらない視点を児童にはもたせていきたい。

また、本時の授業の前半部分では、日本の領土をめぐる問題について学習する。この段階においては、①地理的な名称と位置を調べ、理解させること、②日本の主張に正しく触れるようにすること、③「平和的に解決する」という方向性を忘れずに指導すること、上記3点を念頭に指導していきたい。

5. 小単元の指導（総時数4時間）

時数	ねらい	○学習活動
② (つかむ・調べる)	世界の主な大陸と海洋, 主な国の名称と位置を調べるとともに, 地球上の位置を表す緯度・経度・赤道などについて理解し, 世界の中の日本の位置関係を調べられるようにする。	○地図や地球儀を活用して, 世界の主な大陸や海洋, 主な国の名称と位置を調べたうえで, 世界の中の日本の位置や広がりについて学習問題をつくり, 世界との位置関係を地球儀で調べる。
② (調べる・まとめる)	日本を構成する主な島々や, 日本の東西南北の端, 周りの国々の位置について調べ, 日本の位置や国土の広がりについて理解できるようにする。	○日本の国土の位置や形, 東西南北の端や周りの国々の名称, 国旗, 日本を構成する主な島々をめぐる諸課題について調べ, 国土の特色をまとめる。

6. 本時の指導（第4／4時）

(1) 本時のねらい

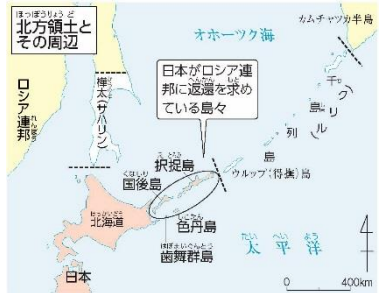
日本を構成する主な島々や周りの国々の位置, 領土をめぐる諸課題について調べ, 日本の位置や国土の広がりについて理解できるようにする。

(2) 本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本時は, 学習問題に対してのこたえを出す時間である。この小単元の学習問題には様々なこたえ方が考えられ, 児童にとって意欲的に取り組むことができると考える。

ここでは, 地図を活用しながら学習問題のこたえを発表させるようにする。ペア→グループ→学級全体と場を変化させつつ, 地図上の位置を具体的に指で示しながら説明をさせる。このように, 繰り返し相手意識をもった伝え合い活動をすることで, 児童の思考をより深め, **確実に学習内容を理解させることができるようにしたい**。また, ペアやグループ内での伝え合い活動を通して, 互いの表現を確認し合うことで, 学級全体の場では自信をもって発表できるものと考えられる。このように, **スモールステップで学習を進めていき, 高学年社会科の第一歩として社会科好きの児童を育てていきたい**。

(3) 本時の展開（「調べる・まとめる」の2時間扱いのうち、本時は2時間目を扱う）

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
5	<p>○本時の課題を確認する。</p> <p>T：ここまで、日本の周りの国々や日本の端にある島々について学習してきましたね。どんな国々、島々がありましたか？</p> <p>C：中国です。</p> <p>C：東の端には、南鳥島という島があります。</p> <p>T：日本と周りの国々には、ある島をめぐる領土に関わる問題があるって聞いたことはあるかな？</p> <p>C：聞いたことがあります。</p> <p>C：知らないなあ…。</p> <p>T：今日はそれについて学習していきましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>課題</p> <p>日本には、他にどのような島々があるのだろうか？</p> </div>	<p>◎資料 ◇留意点 ◆評価</p> <p>◎<input type="checkbox"/>ア 日本の国土の周りの様子</p> <p><input type="checkbox"/>イ 日本の西のはし（与那国島）</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 日本の南のはし（沖ノ鳥島）</p> <p><input type="checkbox"/>エ 日本の北のはし（択捉島）</p> <p><input type="checkbox"/>オ 日本の東のはし（南鳥島）</p> <p>（教科書 5 上 p.10,11）</p>
5 5	<p>○領土をめぐる諸課題について知り、ペアで白地図に着色をする。</p> <p>T：それでは、教科書の本文を読んで確認しましょう。どんなことが分かりましたか。</p> <p>C：北方領土という島々が日本にあって、ロシアとの間に問題があることが分かりました。</p> <p>C：韓国との間に、竹島という島をめぐる問題があります。</p> <p>T：では、それらの島の位置を、白地図に色を塗って確認しましょう。</p> <p>○これらの問題に対し、どうしていけばよいか考える。</p> <p>T：これから、どうしていけばよいかかな？</p> <p>C：ちゃんと日本の領土としてほしい。</p> <p>C：戦争とかじゃなくて、平和的に解決して欲しい。</p> <p>T：そうですね。最後に、日本がこの問題をどう捉えているか、教科書を読んで確認しましょう。</p>	<p>◎<input type="checkbox"/>ア 北方領土、竹島、尖閣諸島の位置（同 p.12,13）</p>  <p>◎地図帳</p> <p>◎白地図</p> <p>◇ペアで課題に取り組み、①地図上で位置を探す児童、②着色をする児童と分担して活動する。</p>
25	<p>○ペアやグループで、小単元の学習問題のこたえを考えたあと、学級全体に向けて発表し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習問題</p> <p>日本は世界のどこにあり、国土の広がりはどうな様子だろうか？</p> </div> <p>T：それでは、「日本は世界のどこにあるのか？」「国土の広</p>	<p>◇本小単元については、学習した様々な言葉を用いて、学習問題のこたえを出せればよいこととする。また、「世界から見た日本」という意識を強くもたせる。</p>

がりはどのようになっているのか？」の2点について、地図をしっかりと指でさし示しながら、自分のこたえを隣の人に伝えましょう。

C：日本は、オーストラリアのほぼ北に位置しています。

C：日本は、日本海を挟んで韓国の東側に位置しています。国土は、南北に細長くなっています。

相手意識をしっかりとめ、相手に説明するという場を設定することで、日本と他国、海洋等との位置関係や、国土の広がりを実に理解できるようにする。

C：アメリカからだ、日本は西側かな、東側かな。

C：日本は四方を海に囲まれている島だよ。

C：日本は島国で、本州の他にもたくさんの島々があるよ。

T：それでは各班の代表の皆さん、みんなに日本の位置と国土の広がりの方がよく分かるように紹介してください。

C：ロシアから見て、日本は南にあり、オホーツク海で隔たれています。また、北方領土をめぐる問題が2国間にはあります。

C：アルゼンチンから見て日本は地図上で北西にあり、その間には太平洋があつて、日付変更線も通っています。また、日本の周りには韓国や中国、朝鮮民主主義人民共和国などの国があります。

発表をする児童と、地図上で位置を指し示す児童というように、グループ内で役割分担を行い、発表内容を一人ひとりがより理解できるようにする。

5 ○学習問題のこたえをまとめ、振り返る。

T：それでは、今日の学習をふまえて学習問題のこたえをまとめていきましょう。

学習問題のこたえ

日本はユーラシア大陸の東側にあり、西側を日本海、東側を太平洋に囲まれた場所に位置している。多くの島々が日本には存在し、南北に細長く国土が広がっている。

T：一人ひとりがしっかりと学習問題のこたえを考えることができましたね。では、今日の学習を振り返りましょう。

C：日本がどんなところにあるかが分かりました。

C：日本の周りがどうなっているのかが分かりました。

◇自分の地図を確認しながら、日本の国土の位置や広がりについての相手の説明を聞くように促し、理解を確かなものにする。

◇一つのグループでも、可能ならば様々な紹介の仕方を考えてよいことを伝える。

◎掲示用世界地図



◇グループの代表がプレゼン形式で発表し、聞く側は「日本の国土の位置や広がりの方がどうなっているかが分かったか」という観点で評価する。

◇これまでの授業で学習した言葉を用いつつ、教師主導でまとめていく。

◆世界の国々・大陸・海洋の名称や方位などを用いて、日本の国土の位置や広がりの方を表現している。

(思・判・表／ノート、発表)

つかむ

調べる

まとめる

深める

～緯度と標高の高低差による気候の違いから問題意識をもつ活動～

1. 小単元名『日本の地形と気候』

(教科書：『小学社会 5 上』 p.14～19／学習指導要領：内容（1）イ）

2. 小単元の目標

国土の地形や気候の様子を概観し、人々の暮らしとの関わりやその特色について捉えさせる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
日本の国土では様々な自然の様子が見られることに気づき、国土の地形や気候の特色について興味をもって調べようとしている。	日本の地形や気候の特色、地域ごとの自然条件の違いについて、地形と気候との関係、季節風のはたらきなどから考え、適切に表現している。	地図や雨温図などの資料を活用して、日本の地形や気候の特色を読み取ったり、調べたりしている。	日本の国土には四季があることや、地域による地形や気候の違い、国土全体の地形や気候の特色について理解している。

4. 指導にあたって

(1) 教材について

本小単元では、日本の地形や気候の特色について捉えていくが、基礎的・基本的な知識としておさえるべき事柄や、資料の読み取りなど習得させなければいけない技能が、3時間という短い単元ながら非常に多い。特に雨温図については、この後の単元の学習でも頻繁に取り扱う資料であるため、読み取り方や比べる視点なども丁寧に指導していく必要がある。また、次の小単元である「自然条件と人々の暮らし」の第1時において、自分たちが住む地域の雨温図を作成する活動が教科書では設けられているが、本小単元でも教師側から資料の一つとして自地域の雨温図を提示できると、他地域との比較という点でも効果が上がる教材となる。

(2) 指導上の工夫・留意点

本小単元は、3時間扱いという短い小単元なので、第1時の学習問題づくりの段階において、児童の学習意欲を十分に高めることに留意する必要がある。また、児童は「北の方の地域は寒く、南の方の地域は暑い」という漠然とした意識をもっている。しかしながら、国土の「北」＝「寒い」／「南」＝「暑い」という、やや極端な意識しかもっておらず、それ以外の地形や気候の特色についての知識はあまりもっていない。そこで、自分たちの生活経験や各種資料を関連付け、実感をもたせながら学習を進める必要がある。自分たちの住む地域と常に比較しながら、それぞれが資料から読み取ったことをもとに自らの疑問や考えを整理し、追究意欲が持続できるように、話し合い活動を設定した。

5. 小単元の指導（総時数3時間）

時数	ねらい	○学習活動
① （つかむ）	日本の国土には四季の変化があることや、地域や土地の高さによって気候に違いがあることを捉え、日本の地形や気候の特色について調べる意欲をもつことができるようにする。	○日本の自然の変化の様子について、様々な資料から読み取り、わかったことをまとめ、学習問題をつくる。
① （調べる）	地図帳や写真資料を活用して日本の山脈や山地、平野、川、海岸線などの様子を調べ、国土の地形の特色について捉えることができるようにする。	○日本の地形の特色について、地図帳や写真資料などから調べ、気づいたことやわかったことを話し合う。
① （まとめる）	日本の気候区分図や各地の雨温図などの資料を読み取ることを通して、国土の気候の特色について考えることができるようにする。	○日本の気候の特色について、雨温図や気候区分図、イラストなどから調べ、気づいたことや考えたことを話し合う。

6. 本時の指導（第1／3時）

（1）本時のねらい

日本の国土には四季の変化があることや、地域や土地の高さによって気候に違いがあることを捉え、日本の地形や気候の特色について調べる意欲をもつことができるようにする。





（2）本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本時の学習問題づくりにおいて、児童にもたせたい問題意識は、「**南北の地域差（緯度の高低差）における気候の違い**」と、「**土地（標高）の高低差による気候の違い**」の2点である。「南北の地域差における気候の違い」は、桜の開花や紅葉の時期が地域によって違うことを教科書の資料から読み取らせることで、疑問をもたせることができる。一方、「土地の高低差による気候の違い」は、教科書の「山の上とふもとの様子のちがい」の写真だけでは、児童に問題意識をもたせることはやや難しい。そこで本時では、資料上ではほぼ同じ桜の開花時期であっても、実際には1ヶ月以上の開花時期の差がある、本校（標高約15m）と児童が本年度訪れる「**自然の教室**」（標高約1000m）の桜の写真を提示することで、「土地の高低差による気候の違い」に対しての問題意識をもたせる。

以上のような学習では、それぞれの資料から読み取った情報を比較・関連付け・総合して考えなければならず、取り扱う資料や情報も膨大なものとなる。そこで本時では、二人組で、それぞれが異なる資料（「桜がさく時期のちがい」と「かえでやもみじが紅葉する時期のちがい」、「桜がさく時期のちがい」と「地図帳」など）を分担して読み取り、それをもとに情報を持ち寄って話し合う活動として、ジグソー形式の学習を設定する。

このような活動を設定することで、児童が主体的に資料の読み取りを行い、自分なりの考えをもって話し合い活動に取り組むことができると考えた。また、共有した情報をもとに話し合うことで、より多面的に思考することができ、自分の考えに自信をもって表現できると考えた。

(3) 本時の展開

時配	○学習活動 T:発問 C:児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
10	<p>○沖縄（1月）と北海道（5月）の桜の写真を提示し、同じ日本の国土の桜でも、4ヶ月も開花時期が違うことから、疑問や予想を話し合う。</p> <p>T: 2枚の写真を見比べて、疑問や予想を発表しましょう。</p> <p>C: 同じ桜なのに、なぜ4ヶ月も開花時期が違うのだろう。</p> <p>C: 場所が違うと思う。南は暖かくて北は寒いから、南の桜が早く咲いて、北の桜が遅く咲く。</p> <p>T: みんなの住んでいる地域の桜は、何月頃に咲きますか。</p> <p>C: 3月の終わりです。</p> <p>T: 同じ日本の国土でも、自然の様子が全く違うのですね。今日は、これについて調べてみましょう。</p> <div data-bbox="256 824 967 981" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>課題</p> <p>日本の国土では、自然の様子にどのような違いが見られるだろう。</p> </div>	<p>◎沖縄の桜の写真</p> <p>◎北海道の桜の写真</p> <p>◇自分たちの住んでいる地域の桜の開花時期を想起させることにより、実感を伴って考えられるようにする。</p> <div data-bbox="1034 589 1433 757" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>北海道と沖縄の桜の写真から、日本の地形と気候に関する興味・関心をもつ。</p> </div> <div data-bbox="1010 808 1441 947" style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">沖縄の桜（1月） 北海道の桜（5月）</p>
8	<p>○ペアで「カ桜がさく時期のちがい」と「キかえでやもみじが紅葉する時期のちがい」を分担して読み取り、資料から分かったことを互いに交流する。</p> <p>T: それでは、それぞれの資料から分かったことをお互いに話し合しましょう。</p> <p>C: カから分かることは、桜は南の方から北に向かって、咲いていきます。写真の桜は、1月のものが沖縄で、5月のものが北海道だと思います。</p> <p>C: キから分かることは、紅葉は北の方から南に向かっていきます。</p>	<p>◎カ桜がさく時期のちがい</p> <p>◎キかえでやもみじが紅葉する時期のちがい(教科書5上p.14)</p> <p>◎日本地図</p> <p>◇ペアで交流した後、学級全体でも分かったことを共有する。</p> <div data-bbox="1034 1305 1433 1473" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>ペアで別々の資料から分かったことを教え合い、日本の地形と気候について考える。</p> </div>
5	<p>○ペアでカとキから分かったことを比較し、二つの資料から考えられることを話し合う。</p> <p>T: 二つの資料から考えられることは、どんなことですか。</p> <p>C: 日本の国土は、南の方から暖かくなっていき、北の方から寒くなっていきます。</p>	<p>◇ペアで話し合った後、学級全体でまとめていく見通しをもたせておく。</p>
7	<p>○「小学校にある桜の写真」と『『自然の教室』にある桜の写真』を見比べる。</p> <p>T: この桜の写真は、みんなが行く「自然の教室」の桜です。何月に咲くと思いますか。</p> <p>C: カで「自然の教室」の場所を見ると、4月の初め頃です。</p>	<p>◎自校の桜の写真</p> <p>◎「自然の教室」の桜の写真</p> <div data-bbox="1010 1821 1425 1966" style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">学校の桜（3月） 自然の教室の桜（5月）</p>

<p>5</p>	<p>○学校と「自然の教室」とでは、距離があまり離れていないのに桜の開花時期が違うことを知り、そのことに対する疑問や予想をペアで話し合う。</p> <p>T:「自然の教室」の桜が咲くのは5月の後半です。北と南であまり離れていないのに、学校の桜と開花時期が2ヶ月も違うのは、どうしてだと思いますか。ペアで話し合ってみましょう。</p> <p>C:南北に離れていないのに、どうして2ヶ月も開花時期が違うのだろう。</p> <p>C:北と南以外でも、気候が違う理由があるのだと思う。</p> <p>C:地図帳を見ると、ここよりも「自然の教室」の方が標高の高いところにありそうだ。</p> <p>C:標高の高い地域と低い地域でも、気候の違いがあるのかもしれない。</p>	<p>◎地図帳</p> <p>地図帳をもとに、桜の開花時期には南北の差だけではなく、土地の高低差も関係していることを、ペアで予想する。</p>
<p>10</p>	<p>○疑問や予想を整理して学習問題をつくり、学習計画を立てる。</p> <p>T:日本の国土では、自然の様子にどのような違いが見られそうですか。</p> <p>C:日本の国土は北と南など、地域によって気候が違います。</p> <p>C:土地の高いところと低いところでも、気候が違います。</p> <p>T:それでは、学習問題をつくりましょう。</p> <div data-bbox="256 1312 967 1473" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習問題</p> <p>日本の地形や気候には、どのような特色があるのだろう。</p> </div> <p>T:何をどのように調べていけば、いいでしょうか。</p> <p>C:南北などの地域の違いによる気候の違いを、教科書や資料集で調べていきたい。</p> <p>C:土地の高さによる気候の違いを図書室の本で調べたい。</p> <p>C:土地の高いところや低いところなど、日本の国土の地形はどのようになっているのか、地図帳で調べたい。</p> <p>T:では、次の時間から詳しく調べていきましょう。</p>	<p>◇本時の課題を再確認し、本時の学習内容全体を振り返るようにする。</p> <p>1月の北海道の様子の写真や、5月の沖縄の様子の写真など、同じ時期の様子が分かる写真資料を追加して、比較させてもよい。</p> <p>◆日本の国土には四季の変化があることや、地域や土地の高さによって気候に違いがあることを捉え、日本の地形や気候の特色について調べる意欲をもっている。 (関・意・態／ノート)</p>

つかむ

調べる

まとめる

深める

～問題意識をもち、米づくり農家の仕事の意味を考えながら調べる活動～

1. 小単元名『米づくりのさかんな地域』

(教科書：『小学社会 5 上』 p.56～73／学習指導要領：内容（2）ア，ウ）

2. 小単元の目標

日本の米づくりについて調べ、食料生産に携わる人々が生産を高めるために工夫や努力をしていることや、自然環境を生かしていること、生産や輸送の費用と米の価格への影響などに目を向け、日本の米づくりの現状と課題を捉えさせる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
日本の米づくりの様子に関心をもち、その様子や課題について意欲的に調べるとともに、国民生活を支えている農業の重要性や発展について考えようとしている。	日本の米づくりの様子から学習問題を見出し、予想や、それを解決するための学習計画を立て、国民生活を支えている食料生産の重要性や農家の人々の工夫や思い、自然環境との関わりについて考え、適切に表現している。	写真や地図、グラフなどの資料を活用しながら、日本の米づくり農家の工夫や抱えている課題などを読み取っている。	国民生活を支えている米づくりが、農家の人々の様々な工夫や努力によって支えられていることや、米づくりと自然環境との関わり、様々な課題に対応するための新たな取り組みの大切さについて理解している。

4. 指導にあたって

(1) 教材について

本小単元の事例地である新潟県南魚沼市では、広い平野部ではなく中山間地域で、付加価値を高めた米づくりが行われている。そのような米づくりを調べていくなかで、自然環境を生かしたり、様々な課題を克服したりしながら生産している農家の取り組みの意味について、考えを深めることができる。また、国土の環境保全、文化・技術の伝承などにも触れ、農業という営みを多面的に捉えさせることもできる教材である。

(2) 指導上の工夫・留意点

児童にとって必ずしも身近ではない米づくりについて、「自分事」として捉え、学習ができるようにするために、「自分たちが主食としている米は、どのように生産されているか」について関心を高め、調べていく。そして、生産者の立場、消費者の立場になって、それぞれの思いや願いを考えられるようにしたい。そのために、**社会的事象の事実のみを調べるのではなく、「なぜそのようなことをするのか」という社会的事象の意味を考えながら調べられるようにしたい。**また、米づくりを取り巻く課題についても関連付けを図り、これからの米づくりについて考えを深めさせるようにしたい。

5. 小単元の指導（総時数9時間）

時数	ねらい	○学習活動
① (つかむ)	米袋や都道府県別の米の生産量の資料をもとに、米づくりのさかんな地域はどこかを捉え、その地域の米づくりについて調べたいことを話し合い、学習の見通しをもつことができるようにする。	○日本の米の生産がさかんな地域はどこか、資料を読み取って調べ、その地域での米づくりについて調べたいことを話し合い、学習問題をつくる。
① (調べる)	写真や地図、雨温図などの資料から、南魚沼市の自然条件や土地利用の特色について調べ、南魚沼市の米づくりが気候や土地の特徴を生かして行われていることを捉えられるようにする。	○雨温図、土地利用図などをもとに、南魚沼市の土地や気候の特色について調べ、米づくりとの関係を捉える。
① (調べる)	米づくりの1年間の仕事の様子について調べ、収穫までに様々な作業を行う必要があることを捉えられるようにする。	○今井さんの1年間の米づくりの仕事の様子について、具体的な資料をもとに調べる。
① (調べる)	今井さんの1日の仕事の様子について調べ、確実性、安全性、環境などに配慮した米づくりの工夫や努力に気づくことができるようにする。	○今井さんの1日の仕事について資料をもとに調べ、具体的な取り組みから生産者と消費者それぞれの願いに気づき、米づくりの工夫や努力に気づくことができるようにする。
② (調べる)	効率性、確実性、安全性、環境などに配慮した米づくりの取り組みについて調べ、米づくりに携わる人々の工夫や努力を捉えることができるようにする。	○様々な資料をもとに、米づくりの工夫や努力について具体的な取り組みを調べ、その取り組みの意味について話し合い、まとめる。
① (調べる)	米の消費量の減少、農業従事者数の減少、国産と外国産の価格競争といった日本の米づくりの課題について調べ、日本の米づくり農家の抱える課題について捉えることができるようにする。	○米の生産量と消費量の変化をグラフから読み取り、日本の米づくりの現状について具体的な資料から調べ、日本の米づくりが抱える課題について考える。
① (まとめる)	米づくりの様々な課題を解決するための取り組みについて調べ、これからも生産を続けていこうとする農家の人たちの工夫や努力、思いについて捉えることができるようにする。	○様々な資料をもとに、米づくりに携わる人たちの工夫や努力、思いや願いについて話し合う。
① (深める)	これまで学んできた米づくりの様子や今井さんの話から、水田が地域に果たす役割を捉えるとともに、米づくり農家の思いや願いについて考えることができるようにする。	○これまでの学習を振り返りながら、今井さんの話をもとに米づくりや水田が果たす役割について捉え、米づくり農家の思いや願いについて考える。

6. 本時の指導（第4／9時）

(1) 本時のねらい

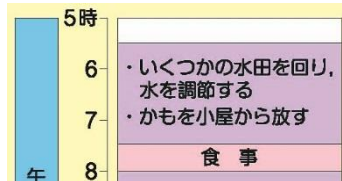

今井さんの1日の仕事の様子について調べ、確実性、安全性、環境などに配慮した米づくりの工夫や努力に気づくことができるようにする。

(2) 本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本時では、まず、今井さんの1日の仕事の流れを調べ、雑草を取り除いたり肥料や農薬をまいたりすることに多くの時間が割かれていることを読み取る。その際、雑草を取る作業の真似をするなど、他人事ではなく自分事として農業を考えやすくする活動を取り入れるのもよいだろう。その後、**なぜそのような仕事をしているのか考えながら、具体的な取り組みを調べる。**そのうえで、「今井さんはどのようなことに気をつけているといえるか」について話し合うことで、生産者として工夫をしていること、消費者の立場になって工夫をしていることに気づくことができるようにする。また、**生産者・消費者の思いや願いといった視点で考えることで、確実性、省力化、おいしさ、安全・安心といった、米づくりに必要な工夫や努力の方向性（価値観）についてまとめ、次時以降でそれぞれの観点から具体的な取り組みについて調べようとする意欲を高めたい。**

このように授業を展開することで、ただ調べてまとめるのではなく、**生産者の立場になって自分事として米づくり農家の仕事について捉え、その意味を考えられるようにしたい。**

(3) 本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
10	<p>○今井さんの1日の仕事の様子を調べ、課題をつかむ。</p> <p>T：前の時間では、米づくりの1年間の様子を調べました。今日は、今井さんの1日の仕事を見ていきます。まずは何をしていますでしょうか。</p> <p>C：田の水を調節して管理をしているね。</p> <p>C：「かも」を小屋から放すのは、なぜかな？</p> <p>C：食事前にも仕事をしていて大変そうだな。</p> <p>T：確かに「かも」は何のためかわからないけれど、水を調節するとはどういうことかな？ 何のためなのかな？</p> <p>C：水の量は米づくりと深い関係があるのかな。</p> <p>T：次に、午前中は何をしているかな？</p> <p>C：雑草を取り除いたり、肥料や農薬をまいたりしている。</p> <p>T：これは、日によってやるのが違うかもしれませんね。では、午後は違う仕事をしているのかな？</p> <p>C：午後と同じような仕事をしていて、驚いた。</p> <p>C：そもそも肥料や農薬はなぜまくのだろう。</p> <p>T：今井さんの作業は、それぞれ何のためにしているのかな？ また、どのようなことに気をつけているのかな？</p>	<p>◎資料 ◇留意点 ◆評価</p> <p>◎ウ 6月～7月ごろの、今井さんの1日の仕事(教科書5上 p.62)</p>  <p>◎ア 用水路のバルブ</p> <p>◎イ バルブを開き、水田に水を入れる様子 (同 p.62)</p> <p>問い返し、疑問をもたせる。</p>  <p>資料を段階的に提示して、雑草の除去と肥料や農薬の散布に長い時間を費やしていることに驚きをもたせる。</p>

課題

今井さんが、米づくりをするなかで気をつけていることはなんだろう。

- 10 ○今井さんの1日の仕事について調べる。
- 10 ○今井さんが、どのようなことに気をつけて仕事をしているかについて、調べたことを発表する。
- T: 今井さんは、どのようなことに気をつけて仕事をしていましたか？
- C: 三日に一度はどの水田も見に行き、水を管理していた。
- C: 水は、気温の変化、強風、雑草の成長から稲を守ってくれるので、大切だと思った。
- C: 「かも」は、雑草や害虫を食べていた。
- C: 「かも」は、稲を丈夫にしたり「ふん」が肥料になったりするので、米づくりの役に立っていた。
- C: 「かも」を放して農薬の回数を減らすことで、環境のことを考えた、おいしい米づくりを目指していた。
- 10 ○今井さんの仕事の意味について話し合い、まとめる。
- T: 今井さんはどのようなことに気をつけているのかな。
- C: 水を管理し、**確実に**稲を育てようとしている。
- C: 「かも」を放し、農薬をまく回数を抑えようとしている。
- T: 農薬を使わないようにすると、何がよいの？
- C: 使いすぎると人体に影響があるから…。
- C: 安心な米をつくらうとしていると思う。
- T: 誰にとって安心かな？
- C: 食べる人、**消費者にとって安心。**
- C: 化学肥料を減らし、土が固くならないようにして、環境にも配慮している。
- T: 生産者である今井さんは、確実に稲を育てることと、消費者のために安心でおいしい米をつくることに気をつけているね。

- ◎**エ**水田に放された、かもの群れ
- ◎**オ**かもの役割 (同 p.63)



◆写真やイラストなどの資料を活用しながら、米づくり農家の工夫を読み取っている。
(技能/ノート, 発言)

◇消費者は、食の安全性について高い関心があることに触れ、消費者の立場を考える必要性について理解できるようにする。

◇生産者と消費者それぞれの願いから、米づくりに必要な工夫や努力の方向性を考え、具体的な取り組みについても考えられるようにする。

「何のための工夫か」を表現することで、農家の仕事の意味について理解できるようにする。

- 5 ○次時への見通しをもち、学習感想を書く。
- T: 昔からずっと同じように米をつくっているのでしょうか？何か他に、確実に、おいしい米をつくる工夫はしていないのでしょうか？
- C: 機械を使うことで、確実に田植えや収穫ができそうだ。
- C: いろいろな種類の米があるのも、工夫の一つなのかな？
- C: 米の種類によって、おいしさが違うのかな？

◇次時以降、農家の人たちの工夫について調べていくことを伝え、調べるための見通しをもつことができるようにする。

つかむ

調べる

まとめる

深める

～日本の水産業に対する疑問から学習問題をつくり、予想から学習計画を立てる活動～

1. 小単元名『水産業のさかんな地域』

(教科書：『小学社会 5 上』 p.74～87／学習指導要領：内容（2）ア、イ、ウ）

2. 小単元の目標

水産業がさかんな地域について調べ、その地域の自然条件や、水産業に携わる人々の工夫や願いを捉えさせる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
自分たちが食べている水産物の産地や日本の水産業について関心をもって意欲的に調べ、自分たちの食生活を支えている水産業が今後どのようなになっていくとよいかを考えようとしている。	中陳さんの漁の様子から疑問に思ったことや調べたいことを考え、表現している。また、水産業に携わる人々の仕事の工夫や願い、安定して水産資源を確保していくために必要なことなどについて、資料や調べたことをもとに考え、適切に表現している。	水産業に関する写真や地図、統計などの資料を目的に合わせて収集・選択し、的確に読み取っている。	日本の水産業がさかんな地域の様子や、水産業に携わる人々の仕事の工夫、日本の水産業の現状や安定的に漁業を進めていくための養殖業や栽培漁業の取り組みについて理解している。

4. 指導にあたって

(1) 教材について

本小単元では、さんまの漁獲から加工、出荷まで、人や場所が変わっても一貫して鮮度を保つ努力が続けられていることに気づかせたい。安全性や鮮度を保つ取り組みを具体的に挙げ、結びつけて考えているかがポイントである。また、「とる漁業」と「育てる漁業」の違いをしっかりとつかませるようにしたい。米づくりでは、人の手で一から稲を育てて収穫するのに対し、さんま漁では、さんまの育成に人の手は加わず、海（自然）の中で育ったさんまを漁獲する。このような「とる漁業」の前提を把握しておく、人の手によって水産物を育てて増やす養殖業・栽培漁業との違いもわかりやすくなり、水産資源の保護や自然環境の保全の必要性についても捉えやすくなる。

これらの活動を通して、我が国の水産業は国土の自然環境を生かして営まれ、国民の食料を確保するうえで重要な役割を果たしていることについて考えさせたい。

(2) 指導上の工夫・留意点

一貫して鮮度を保つ努力が続けられていることに気づかせるため、各時間の学習内容をつなげ、一連の流れとして捉えさせる必要がある。各時間の導入で、「この前は、さんまがどこまで来ていたかな？」などと問いかけ、前時からつなげて生産・出荷の過程を追うことができるようにする。

また、「とる漁業」と「育てる漁業」の違いをしっかりとつかませるために、米づくりとさんま漁の異なる点を考えさせるのも効果的である。

安全で質のよい水産物を確保するために必要なことを、学習したことをもとに考え、話し合ったり、ノートにまとめたりする活動を設け、「思考・判断・表現」の観点の評価に生かす。

5. 小単元の指導（総時数8時間）

時数	ねらい	○学習活動
② （つかむ）	自分たちの食べている水産物の名前や産地を調べ、日本の水産業について興味や関心を持ち、調べようとする意欲をもつことができるようにする。	○身近な水産物の産地を調べるとともに、主な海流と水あげが多い漁港との関係などについて考えることを通して、学習問題をつくる。
① （調べる）	さんまをとる中陳さんの仕事の様子から、水産業について調べていきたいことを話し合い、様々な工夫をしながらさんま漁を進めていることを調べて捉えられるようにする。	○中陳さんのさんま漁について、イラストの読み取りをもとに調べることを決めたあと、様々な資料をもとに、漁の工夫について具体的に調べる。
① （調べる）	根室港の様子や出荷に向けての仕事を調べ、さんまの出荷に携わる人々の工夫や努力、出荷にかかる費用と値段の関係について、捉えることができるようにする。	○写真や働く人の話を通して、根室港に水あげされたさんまのゆくえについて調べ、加工工場働く人たちの工夫や努力、値段の決まり方やかかる費用などについて話し合う。
① （調べる）	さんまが港から自分のもとに届くまでの様子を調べ、産地と消費地を結ぶ流通・輸送のはたらきについて捉えることができるようにする。	○さんまが産地から消費地までどのように運ばれているのかを様々な資料をもとに調べ、運送会社の人たちの工夫や努力、輸送手段やかかる費用の違いについて考える。
① （調べる）	北方領土と漁業の制限、水産資源の減少などについて調べ、漁業に携わる人たちの願いについて考えることができるようにする。	○根室の漁業と北方領土の関係や、日本の漁業の現状について様々な資料を読み取って調べ、漁業に携わる人たちの願いについて考える。
① （まとめる）	自然環境を生かしたかんぱちの養殖について調べ、質がよく安心して食べられる魚を育てる養殖業の工夫や努力に気づくことができるようにする。	○かんぱちの養殖の仕事やえさやりの工夫について資料を通して調べ、養殖業に携わる人たちの願いについて話し合う。
① （深める）	安定した漁業生産を旨とした稚魚育成や栽培漁業の取り組みについて調べ、今後の水産業のあり方について考えることができるようにする。	○かんぱちの稚魚育成や栽培漁業の取り組みを調べ、水産資源を守る工夫や願いを考えるとともに、これからの水産業について話し合う。

6. 本時の指導（第2／8時）

(1) 本時のねらい

普段食べている水産物が自分たちのもつに届けられるまでを考え、日本の水産業について興味や関心をもち、調べようとする意欲をもつことができるようにする。


(2) 本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本時の考え合い表現し合う活動は、写真資料を読み取る中で出てくる疑問を出し合い、それに対する予想を立て、学習問題をつくる場面である。児童の思考がスムーズに流れるようにするため、疑問を出し合ったあと、その疑問に対する予想も話し合わせる。導入段階での話し合いであるため、学習面で遅れのある児童でも話し合いに参加しやすいよう、個人で考える時間を設ける。色の違う付箋にそれぞれ、写真資料を通して出た「疑問」と、生活経験の中から考えた「予想」を書き、4～5人のグループごとに画用紙にまとめていく。疑問をまとめて見出しをつけていき、その見出しからキーワードを考え出し、学級全体で学習問題をつくる。また、話し合いの中で深められた予想をもとに、これから何をどのように調べていけばよいか、見通しをもたせながら学習計画を立てる。

このように、子どもたちの疑問から学習問題をつくり、予想から学習計画を立てることで、単元を通して児童の興味・関心を持続できるようにしていく。

(3) 本時の展開（「つかむ」の2時間扱いのうち、本時は2時間目を扱う）

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価																								
8	<p>○「都道府県別の漁業生産額の割合」を読み取り、課題を出す。</p> <p>T：都道府県別に見ると、どこでいちばん多く水産物が獲れると思いますか？</p> <p>C：銚子港があるから、千葉県！</p> <p>C：大きい漁港が多いから、北海道。</p> <p>T：「都道府県別の漁業生産額の割合」で見ると、北海道がいちばん多いです。さんまが多く集まる漁港も、北海道の根室港でした。</p> <p>T：遠くで獲れた水産物が売り場に届くまでの水産業の様子について、考えていきましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>課題</p> <p>わたしたちが食べている水産物は、どこで多くとれるのだろう。</p> </div>	<p>◎都道府県別の漁業生産額の割合</p> <p>(2013年 農林水産省)</p> <table border="1" style="display: none;"> <caption>都道府県別の漁業生産額の割合 (2013年)</caption> <thead> <tr> <th>都道府県</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>北海道</td><td>22%</td></tr> <tr><td>長崎</td><td>7%</td></tr> <tr><td>愛媛</td><td>6%</td></tr> <tr><td>鹿児島</td><td>6%</td></tr> <tr><td>宮城</td><td>4%</td></tr> <tr><td>静岡</td><td>4%</td></tr> <tr><td>高知</td><td>4%</td></tr> <tr><td>三重</td><td>3%</td></tr> <tr><td>青森</td><td>3%</td></tr> <tr><td>兵庫</td><td>3%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>38%</td></tr> </tbody> </table> <p>◇「水産業」という言葉の意味を再確認する。</p> <p>◇円グラフを用意して、北海道の漁業生産額が最も多いことを視覚的に分かるようにする。</p>	都道府県	割合 (%)	北海道	22%	長崎	7%	愛媛	6%	鹿児島	6%	宮城	4%	静岡	4%	高知	4%	三重	3%	青森	3%	兵庫	3%	その他	38%
都道府県	割合 (%)																									
北海道	22%																									
長崎	7%																									
愛媛	6%																									
鹿児島	6%																									
宮城	4%																									
静岡	4%																									
高知	4%																									
三重	3%																									
青森	3%																									
兵庫	3%																									
その他	38%																									
10	<p>○写真資料「魚売り場にならぶ水産物」から分かったことを出し合う。</p> <p>T：この資料から気がついたことを出してみましょう。</p> <p>C：さんまがいちばん多く売られている。なぜ多く売られているのかな。</p>	<p>◎ア魚売り場にならぶ水産物 (教科書 5 上 p.74)</p> <p>◇資料名を全体で読み上げ確認する。</p> <p>◇教科書に直接印をつけるなどして、より多くのことに気づかせる。</p>																								

<p>15</p>	<p>C: 大分や青森, 宮城や北海道から集まっているね。どうやって1ヶ所に集めているのだろう。</p> <p>T: 小学校の近くのスーパーでは, さんまを1匹95円で売っていました。</p> <p>C: 1匹780円はとても高い。どうして高いのだろう。</p> <p>○疑問を出し合い, 疑問に対する予想を立て, グループごとにまとめる。</p> <p>T: 写真を見て調べていきたいことや疑問に思ったことをピンク色の付箋, その疑問に対する予想を黄色の付箋に書き出していきましょう。</p> <p>C: なぜ, さんまだけ量が多いんだろう。</p> <p>C: どうやって様々な産地から新鮮な状態で届けられるのだろう。</p> <p>T: それぞれが書いた疑問と予想を見せ合い, 似たものをまとめて, 見出しをつけましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚を獲るときの工夫 ・新鮮なまま届けるための工夫 ・値段について 	<p>◇産地の表示に着目させ, 水産物が全国各地から一つの売り場に運ばれていることをおさえる。</p> <p>◇近隣の店で売られている水産物の値段を写真などで別途提示し, 値段の違いに着目させる。</p> <p>◇写真資料からわかったことを出し合うなかで, 児童が疑問をもてるように発問する。</p> <p>◇各自で考えた疑問と予想を集約し, 見出しをつけることを通して, まとめられるようにする。</p> <p>◇見出しをキーワードとして位置づけるために, 太いペンを使って大きく書くよう指示する。</p> <p>◇児童が学習問題をつくりやすいよう, リード文を与える。</p>
<p>10</p>	<p>○学級全体で, 学習問題と学習計画を考える。</p> <p>T: みんなの疑問をまとめて, 学習問題をつくりましょう。</p> <div data-bbox="252 1249 954 1406" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習問題</p> <p>水産業のさかんな地域では, どのようにくふうや努力をして水産物を消費者に届けているのだろう。</p> </div> <p>T: 何から調べていくといいですか?</p> <p>C: まず, 海から魚を獲るんだから, さんまを獲る方法から調べるといいと思うよ。</p> <p>C: 魚を獲った船は港に着くから, 次は港の仕事について調べるといいね。</p> <p>C: 港からどうやって店や家に届くのかな。それを調べていこう。</p> <div data-bbox="252 1774 367 1814" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>学習計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚を獲る工夫 ・港の仕事 ・輸送方法 </div> <div data-bbox="486 1720 954 1960" style="text-align: center;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="background-color: black; color: white; padding: 5px; border: 1px solid black;">海</div>  <div style="background-color: black; color: white; padding: 5px; border: 1px solid black;">売り場</div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">?</p> </div>	<p>◇キーワードから学習計画を立てる。</p> <p>◇視覚的に学習の流れがわかるよう板書する。</p> <p>◇左のような資料掲示をすることで, さんまが獲れてから自分たちの手元に届くまでの流れに沿って調べていくという, 学習の見通しがもてるようにする。</p> <p>◆日本の水産業に興味や関心をもち, 調べようとする意欲をもっている。(関・意・態/ノート)</p>
<p>2</p>	<p>○次時の予告をする。</p>	<p>◇次時に関心をもてるようにする。</p>

つかむ

調べる

まとめる

深める

～単元の学習をキーワードで振り返り、自動車生産における工夫や努力をまとめる活動～

1. 小単元名『自動車づくりにはげむ人々』

(教科書：『小学社会 5 上』 p.110～131／学習指導要領：内容（3）ア，ウ）

2. 小単元の目標

自動車を生産し出荷する人々の仕事の様子について調べ、消費者のニーズに応えるため、あるいは効率よい生産を進めるために、多くの工夫や努力がなされていることを捉えさせる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
自動車づくりの仕事やそれに関わる人たちの工夫や努力について関心を持ち、意欲的に調べようとしている。また、これからの自動車づくりについても、意欲的に考えようとしている。	自動車づくりの様子について問いをもち、予想して、それらを適切に表現している。また、自動車づくりに関わる仕事の様々な工夫や努力について、資料や調べたことをもとに考え、適切に表現している。これからの自動車づくりについても、自動車に乗る立場と、開発者・生産者の立場の両面から考え、適切に表現している。	自動車の生産の様子や工場の立地、運輸の様子などについて、地図や自動車会社のウェブサイト、パンフレットなど、様々な資料を適切な方法で収集し、読み取っている。	自動車の生産や輸送における工夫や努力に気づき、生産の主な工程や自動車工場と関連工場との結びつき、交通網の広がりについて、理解している。また、自動車は消費者の要望に基づいてつくられていること、これからは地球環境に配慮した自動車づくりも重要であることを理解している。

4. 指導にあたって

(1) 教材について

本小単元では、わが国の基幹工業である自動車生産を取り上げ、自動車がどのような過程でつくられていくかを調べていく。大きくは「組み立て工場」を取り上げるが、そこで生産されているものが、たくさんの「関連工場」を経て生産されていくことについても調べる。また、完成した自動車が消費者のもとに届くまでには、様々な方法で輸送されていること、自動車は乗る人の願いに応えるためにつくられていることなども捉えさせたい。

(2) 指導上の工夫・留意点

本小単元は、見学活動を含めて13時間扱いと、比較的長い期間にわたって展開している。そのため、追究過程で学習意欲が持続できるように留意する必要がある。そこで、「組み立て工場」や「関連工場」の製造過程の写真を正しく並び替える活動や、学習したことをグループで話し合い、考えを深める場面を適宜設けるようにする。

また、毎時間の授業ごとに、学習内容を総括して深めるために、「今日の授業を一言で」まとめる。

各自で考えたあと、グループで話し合い、学級の「今日の授業を一言で」をつくる。同時に、その日の板書を振り返り、大切な内容や言葉を確認する。「まとめる」場面では、各時の「今日の授業を一言で」(＝キーワード)をまとめ、グループから学級全体へと話し合いを広げ、学習問題のこたえを導き出すようにする。

5. 小単元の指導 (総時数 13 時間)

時数	ねらい	○学習活動
① (つかむ)	自動車のデザインや設計の様子を調べ、自動車づくりの第一歩を捉えるとともに、その後の生産の様子について興味をもつことができるようにする。	○自動車のデザイン・設計の仕事に関する資料を読み取り、わかったことをまとめ、学習問題をつくる。 自動車づくりにたずさわる人たちは、人々の願いに応えるために、どのような工夫や努力をしているのだろう。
② (調べる)	自動車が生産者のもとに届くまでには、自動車工場だけでなく、関連工場や運輸、販売などはたらきがあることや、環境保全の取り組みなどについて調べ、自動車づくりの様子について捉えることができるようにする。	○自動車づくりの授業が終わるごとに授業の内容を「今日の授業を一言で」としてキーワードでまとめ、その理由もノートに書く。その際、授業のポイントを板書で確認する。グループ内でノートを見せ合ったり、授業の内容について話し合ったりする。グループでまとめたものを、学級全体の「今日の授業を一言で」としてまとめる。
③ (まとめる)	これまでキーワードとしてまとめてきた、自動車がつくられる様子、運輸、販売、環境保全の取り組みなどをもとに、学習問題のこたえを出し、これからの自動車づくりについて考えることができるようにする。	○これまでの授業でまとめてきたキーワードを振り返り、それらをまとめて、学習問題のこたえを出す。 自動車づくりにたずさわる人たちは、 ♡大切にしていること「人々の願い」「環境」「よりよい製品づくり」「協力し合いながらの自動車づくり」 ☆工夫や努力「分担」「むだのない生産」 をして自動車をつくっている。

6. 本時の指導 (第 13/13 時)

(1) 本時のねらい

自動車づくりに携わる人たちの工夫や努力、大切にしていることについて、これまで学習してきたことをまとめ、これからの自動車づくりについて考えることができるようにする。

(2) 本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本時は、これまで**毎時の授業でまとめてきたキーワード**をもとに、学習問題のこたえを考え出す授業である。そのうえで、これからの自動車づくりについても考えていく。

これまで、**注文してから消費者のもとに届くまでの自動車づくりの過程**について学習してきた。

その際、授業の最後に「今日の授業を一言で」(＝キーワード)を各自でカードに書いたあと、グループや学級全体で共通するものはないか並び替えさせるなかで、共通する「ことば」を見つけ出してきた。その「ことば」と学習した内容をつなぐことで、学習を深められるようにしてきた。

本時では、毎時間の授業の積み重ねを振り返り、これまでどのような学習を行ってきたかについても一度想起する。各時の「今日の授業を一言で」と、その言葉を選んだ理由を振り返るとともに、似ているものを探してまとめ、学習問題のこたえを導き出すようにする。その際、例えば「大切にしていること」や「工夫や努力」といった概念でまとめることが考えられる。

(3) 本時の展開

時配	○学習活動 T:発問 C:児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
10	<p>○本時の課題と、小単元の学習問題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題</p> <p>これまで調べたことをもとにして、自動車づくりについての学習問題のまとめをしよう。</p> </div> <p>○これまで授業ごとにまとめたキーワードを振り返る。</p> <p>T:これまでまとめてきた「今日の授業を一言で」には、どのようなものがあつたでしょう。</p> <p>C:自動車をつくっている人は、「よりよい製品づくり」ができるように考えている。</p> <p>C:自動車をお客さんのもとに届ける人たちは、乗る人たちのことを考えています。これは、「人々の願い」としてまとめました。</p> <p>C:自動車工場では、工場で出るゴミなども、できる限り減らしたり、リサイクルをしたりしている。「環境」について考えて取り組んでいる。</p> <p>C:自動車をつくる人は、「組み立て工場」や「関連工場」で、それぞれの仕事を「分担」している。</p> <p>C:効率的に自動車をつくり、ゴミなども出さないようにして、「むだのない生産」をしている。</p>	<p>◇学習問題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自動車づくりにたずさわる人たちは、人々の願いに応えるために、どのような工夫や努力をしているのだろう。</p> </div> <p>◇学習問題に対するまとめの根拠とするために、これまでのノートを振り返る。</p> <p>◎これまで学習してきたノート</p> <p>◇前時までに学習してきたことをキーワードに基づいて振り返り、なぜそのキーワードにしたか、理由も考える。</p> <p>◇キーワードと学習した内容を結びつけやすくするために、これまで活用した写真やグラフなどの資料も提示して、キーワードと結びつける。</p>
25	<p>○グループで話し合い、「今日の授業を一言で」の中で似ているものをまとめる。</p> <p>T:これまでの「今日の授業を一言で」の中で、似ているものを考え、二つほどの「ことば」にまとめていきましょう。</p> <p>C:6枚のカード(「今日の授業を一言で」)を見て、グループのみんなで、似ているものを組み合わせよう。</p> <p>C:自動車づくりに携わる人たちは、自動車に乗る人たちのことを考えて生産していたから、「人々の願い」と「よりよい製品づくり」は、つながりそうだよ。</p> <p>C:組み立て工場や関連工場の仕事の「分担」をして、それぞれの工場でする限り「むだのない生産」をしていたの</p>	<p>◇各グループに、これまでの「今日の授業を一言で」が書かれたカードを配付して、似ているものを二つ程度のカテゴリーに分類させる。</p> <p>◇カードを分類するなかで、自動車づくりの仕事をさらに焦点化し、「似ているもの」をまとめる「ことば」を見つけられるようにする。</p>

で、この二つはつながりそうだね。

T: 各グループで話し合っていく中で、「今日の授業を一言で」の似ているものを見つけ出せてきましたね。なぜそのように分けたのか、グループで話し合しましょう。

C: これまで学習してきたことをもとにすると、「分担」と「むだのない生産」は、工場の取り組みとして、一つにまとめることができそうだから。

C: 「人々の願い」や「よりよい製品づくり」は、どちらも乗る人のことを考えているということだから。これは「大切」という言葉でまとめられないかな。

C: 「分担」や「むだのない生産」ということは、つくる人たちの「工夫や努力」という言葉でまとめられるかな？

C: 「協力し合いながらの自動車づくり」をどうまとめるか難しかったけれど、「大切」の中に入れられそうだな。

T: 今日、グループで話し合ってきたことを、みんなでもとめて、学習問題のこたえとしましょう。

C: わたしたちのグループは、「人々の願い」「よりよい製品づくり」「環境」「協力し合いながらの自動車づくり」を「大切にしていること」にまとめ、「分担」「むだのない生産」を「工夫や努力」にまとめました。

C: 他のグループのノートを見て、「工夫や努力」については、乗る人のことを考えることも大切だけれど、乗らない人のことを考えることも大事ではないかと思いました。

T: では、学習問題のこたえをまとめていきましょう。

◇カードの分け方の理由、考えた「ことば」の理由をノートに書く。

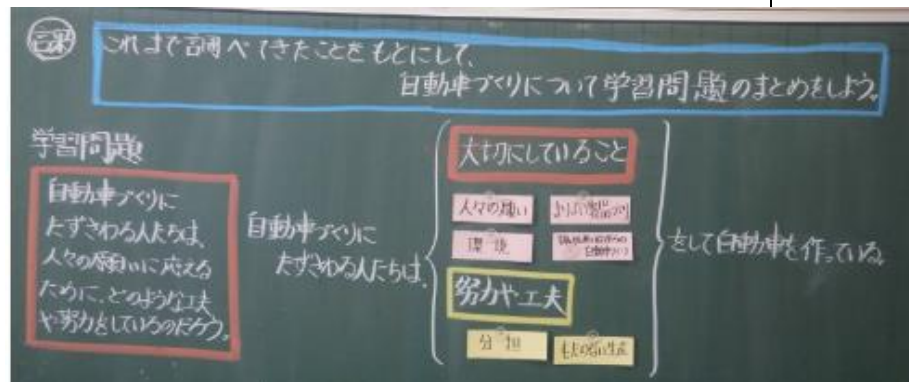
◇自分のグループだけでなく、別のグループのノートも見て参考にする。

◇別のグループのノートを見て、よい考えがあったときは、質問をしたり「友達の意見」としてノートに書いたりする。

◇グループでまとめたことを学級全体の「学習問題のこたえ」としてまとめ上げる。書き出しは教師が提示する。

◆わが国の自動車生産の様子について、学習問題のこたえを考えている。

【思・判・表／ノート】



←学習問題のまとめの例

10 ○これからの自動車づくりについて考える。

T: これまで自動車づくりについて学習してきたことから考えると、これからは、どんなことに気をつけて自動車づくりをしていけばよいかな？

C: 電気自動車などが開発されてきているので、これからも空気を汚さない自動車づくりは大切だと思う。

C: 交通事故がなくなってほしいから、事故を起こさない自動車の開発に注目していきたい。

T: これからの自動車づくりについて、ノートに自分の考えを書きましょう。

◇これまで学習してきたことをもとにして、これからの自動車づくりはどうあるべきか考えるようにする。

◇小黒板やホワイトボードなどに各自の考えを書き表し、それをもとに話し合う。

つかむ

調べる

まとめる

深める

～自動車の海外生産増加について、グラフから問題意識をもって調べる活動～

1. 小単元名『世界とつながる日本の工業』

(教科書：『小学社会 5 上』 p.132～141／学習指導要領：内容（3）ウ）

2. 小単元の目標

工業生産を支える貿易や海外生産のはたらきと、それらを通じた世界各国との結びつきについて調べ、その特色や課題を捉えることから、今後の貿易・海外生産の進め方について、考えをもたせる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
日本の自動車世界各地に輸出されていることに気づき、工業生産を通じた外国とのつながりについて、興味をもって調べようとしている。	工業生産における世界各国との結びつきについて調べる学習問題を考え、表現している。また、日本の貿易の特色について調べたことをもとに、日本の工業生産と貿易の関わりについて考え、表現している。	外国における自動車生産の様子について、グラフや地図などの資料から、必要な情報を読み取っている。また、日本の工業生産を支える貿易の様子について、必要な情報を読み取り、ノートや教科書にまとめている。	日本の主な輸出入の品目や貿易相手先について知り、貿易や海外生産を通じた世界各国とのつながりが、工業生産を支えていることを理解している。

4. 指導にあたって

(1) 教材について

本小単元は、日本の工業生産について、世界とのつながりを通して考えていく。その際、地図帳や地球儀などを活用し、実際にその国や地域の位置を確かめる活動を通して具体的な理解につなげたい。また、輸出入の品目や貿易相手先などを読み取る統計資料が多く登場する単元でもある。これらの資料を根拠とし、比較・関連付け・総合して考えさせながら、世界とつながる日本の工業の様子を捉えさせたい。

(2) 指導上の工夫・留意点

本小単元は、前小単元で学習した「自動車」の輸出や海外生産の様子を導入として展開される。そこから、「日本の工業生産」を支える貿易の現状と課題へと、児童の思考の幅を広げていく必要がある。また、豊富な統計資料があることも本小単元の特色である。これらの資料について、資料名を確認することはもちろん、数値や変化の様子なども丁寧に読み取らせ、全体で確認することで、児童の思考の材料となる情報を確実に捉えさせたい。さらに、その資料は「疑問をもたせるためのものか」「他の資料と比較させて考えさせるものなのか」「思考の確認のためのものなのか」など、資料活用のねらいをよく考えたうえで、授業を構成したい。

5. 小単元の指導（総時数5時間）

時数	ねらい	○学習活動
① (つかむ)	日本の自動車の輸出の様子を調べ、工業生産における世界各国との結びつきについて関心をもち、学習問題をつくることができるようにする。	○日本の自動車の輸出の様子を様々な資料から読み取り、わかったことを話し合い、これから調べていく学習問題をつくる。
① (調べる)	日本の自動車の輸出台数や海外生産台数の変化、世界に広がる日本の自動車工場について調べ、日本の自動車生産と世界の国々との結びつきについて考えることができるようにする。	○日本の自動車の海外生産が増えていることを資料から読み取り、その理由を考え、話し合う。
① (調べる)	日本の輸出入の状況を調べ、日本の貿易の特色を理解することができるようにする。	○日本の輸出入品の品目や貿易相手先について資料から読み取り、日本の貿易の特色についてわかったことを話し合う。
① (調べる)	原材料の輸入や工業製品の輸出について調べ、日本の工業生産と貿易の関わりについて考えることができるようにする。	○原材料の輸入や工業製品の輸出、港別の貿易額などについてグラフや写真から読み取り、日本の貿易の特色を捉え、日本の工業生産と貿易の関わりについて考える。
① (まとめる)	世界の貿易や日本の海外生産の現状を知り、これからの貿易と海外生産のあり方について考えることができるようにする。	○貿易と海外生産の現状や課題を様々な資料から読み取り、これからの貿易・海外生産のあり方について考えをまとめる。

6. 本時の指導（第2／5時）

(1) 本時のねらい

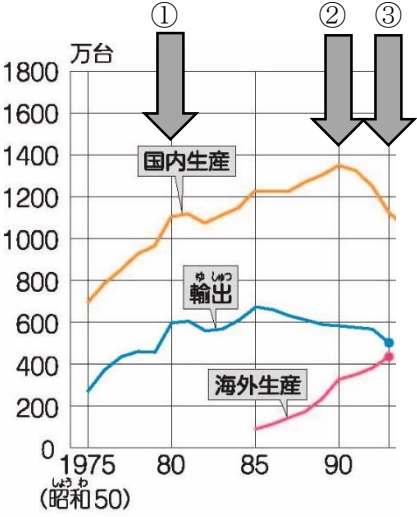
日本の自動車の輸出台数や海外生産台数の変化、世界に広がる日本の自動車工場について調べ、日本の自動車生産と世界の国々との結びつきについて考えることができるようにする。


(2) 本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本時においては、「自動車の海外生産が増えた理由とその利点」について問題意識をもって学習していくことが重要である。そのために、児童の思考を揺さぶる事実を資料から読み取らせ、疑問をもたせることで、興味・関心を高めて授業を展開していく。

まず、教科書5上 p.134 資料アを活用し、段階的に折れ線グラフを隠して提示しながら、それ以降の輸出台数、国内生産台数の変化を予想させる。既習の内容やそこまでの変化の傾向から、実際とは逆の予想をする児童が多いと考えられる。その後児童の予想とグラフから得られる事実を比較させ、児童の思考にギャップを生じさせることで、「なぜだろう?」「もっと詳しく知りたい」と意欲的に学習に取り組めるようにする。また、学級全体で予想を確認する時間を十分に確保し、思考の土台となる情報を共有できるようにする。このように、問題意識をもたせつつ授業を展開していくことで、児童がより活発に話し合い、自分の思いを表現し、主体的に授業に参加できると考えた。

(3) 本時の展開

時配	○学習活動 T:発問 C:児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
10	<p>○資料[ア]から、輸出台数と国内生産台数の変化を予想し、本時の課題を確認する。</p> <p>T:海外にも日本の自動車が広まっていると前の時間に学習しましたね。では、資料[ア]を見てください。1980年以降、輸出台数と、国内生産台数は、どのように変化していると思いますか。</p> <p>C:輸出も国内生産も、ともに増えていると思います。</p> <p>T:それでは、グラフの続きを確認してみましょう。</p> <p>C:新しい折れ線グラフが加わっているよ。</p> <p>C:輸出はほとんど変わらないね。</p> <p>T:さらにこの続き、1990年以降はどうなっていると思う?</p> <p>C:今度こそ、どちらとも増えているんじゃないかな?</p> <p>T:それでは、確認してみましょう。</p> <p>C:輸出も国内生産も減っている!</p> <p>C:1985年から始まっている折れ線は増え続けているよ。</p> <p>C:...何だろう?</p> <p>T:資料名から考えると、その折れ線も自動車の生産台数になにか関係がありそうですね。では、それについて今日は勉強していきましょう。</p> <div data-bbox="252 1256 970 1413" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>課題</p> <p>日本の自動車は、輸出されるほかに、どのようにして広まっているのだろうか?</p> </div>	<p>◎[ア]日本の自動車の生産台数と輸出台数の変化(教科書5上 p.134)</p>  <p>◇グラフの情報を①1980年まで②1990年まで③1993年まで④最後までに分けて提示し、そのつど続きを予想させる。そこまでのグラフの変化や推移をふまえたり、既習事項や知識を生かしたりしながら、意欲的に考えられるようにする。</p> <p>◇児童の思いを顕在化させ、疑問を共有することで、本時の学習に意欲的に取り組めるようにする。</p>
5	<p>○資料[ア]が何を表しているか、考える。</p> <p>T:それでは、このグラフを最後まで見てみましょう。</p> <p>C:国内生産は減っている。輸出はあまり変化がないなあ。</p> <p>C:赤の折れ線は1700万台ぐらいまで大きく伸びている!国内生産より多くなっているよ。</p> <p>T:この折れ線は何を表しているんだろうね。</p> <p>C:輸入じゃないかな。</p> <p>C:でも、海外の車が日本でそんなに走っているかなあ?</p> <p>T:では、赤の折れ線が何を表しているのか、教科書で確認しましょう。</p>	<p>◇この段階で初めて、資料[ア]を最後まで見せる。</p> <p>◇予想と資料から分かった事実を比較させながら、児童に考えさせる。</p>
10	<p>○海外生産について知り、どの国々で日本の自動車会社が現地生産を行っているかをグループで確認し、分か</p>	

	<p>ったことや考えたことを話し合う。</p> <p>T: 赤の折れ線は海外生産台数について表していたんですね。それでは、資料「イ」からどんなことがわかりますか？</p> <p>C: 日本の自動車工場は世界中にあります。</p> <p>C: 遠く離れたイギリスにも自動車工場があります。</p> <p>T: なるほど、「どこの国で」ということがわかりますね。</p> <p>C: 青色の地域では、906万台も生産している事がわかります。</p> <p>T: その地域で「どれくらいの量」を生産しているか、ということもわかりますね。他に考えたことや疑問に思ったことはありますか？</p> <p>C: どうして、日本から輸出するだけでは、だめなのかな？</p>	<p>◎「イ」世界に広がる日本の自動車工場と、現地での生産台数(同 p.135)</p>  <p>◇グループごとに地球儀を使い、資料「イ」と対応させながら話し合う活動を通して、多くの国々とのつながりを理解できるようにする。</p> <p>◇課題にある「どのようにして」という言葉を、より具体化して考えられるようにする。</p>
15	<p>○海外生産増加の理由やその利点について考え、確認する。</p> <p>T: どうして、海外生産台数が増えているのかな？</p> <p>C: 海外のほうが安く生産できるんじゃないかな？</p> <p>C: 日本から遠く離れた国だと、輸出をするのに費用がかかり過ぎるんじゃないかな？</p> <p>T: では、教科書の本文から、海外生産台数が増えた理由や、そのよさについて確認しましょう。</p> <p>C: 生産や輸送にかかる費用を抑えることができます。</p> <p>C: 関税という税金がかからないから、と書いてあります。</p> <p>C: 関税がかからないので、自動車を安く買えます。</p> <p>C: 「ウ」の資料にもあるけど、現地の人が働いているので、自動車づくりを学ぶことができると思います。</p> <p>T: そうですね。最後に「海外の工場で働く青山さんの話」を読んで確認しましょう。</p>	<p>◇本文に線を引かせ、問いの答え(理由)として分かったことをしっかり整理できるようにする。</p> <p>◎「ウ」インドにある日本の自動車工場の様子(同 p.135)</p> <p>◇学習問題とも絡めて、「自動車づくりを通して海外に広まっているものは何か」と児童に問いかけ、思考が深まるようにする。</p> <p>◇利点ばかりでなく、課題もあることを確認する。</p> <p>◆外国における自動車生産の様子について、グラフや地図などから必要な情報を読み取っている。(技能/ノート)</p>
5	<p>○本時の課題についてまとめる。</p> <p>T: それでは、まとめていきましょう。日本の自動車は輸出のほかにどのように広まっていっていますか？</p> <p>C: 各国での海外生産を通して広まっています。</p> <p>C: その車がさらに他の国に輸出されることもあります。</p> <p>C: 自動車づくりを通して技術なども広まっています。</p>	<p>◇キーワードを板書に明示し、どの児童も本時の課題に対してのこたえをまとめられるようにする。</p>
<p>まとめ</p> <p>日本の自動車は、輸出されるほかに、海外生産を通して大量に世界各国へ広がっている。また、自動車の海外生産を通して技術なども広まり、その国の産業の発展を支えることもある。</p>		

つかむ

調べる

まとめる

深める

～グループで複数の資料をもとに日本の工業生産の強みと課題を共有し、考えを深める活動～

1. 小単元名『工業の今と未来』

(教科書：『小学社会 5 上』 p.142～155／学習指導要領：内容（3）ア，イ，ウ）

2. 小単元の目標

さかんな工業の種類や工業地域，大工場と中小工場のそれぞれの生産の様子など，日本の工業の特色を捉えさせる。また，高い技術やアイデアを生かし，心の豊かさをもたらす工業生産が進められていることを捉えさせるとともに，これからの工業生産について考えさせる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
生活が様々な種類の工業製品に支えられていることに気づき，日本の工業生産の特色について，興味をもって調べようとしている。	海沿いや一部の内陸部で工業生産がさかんな理由について，土地の条件や交通網の発達と関連付けて考え，表現している。また，工業生産と人々の生活を関連付けて，工業生産は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考え，表現している。	大工場や中小工場の特色について，資料から読み取ったことをノートや教科書にまとめている。また，高い技術を生かしてものづくりをする中小工場の工夫や努力について，必要な情報を資料から読み取り，ノートにまとめている。	工業がさかんな地域の分布や，生産の割合が大きい工業の種類，日本の工業生産を支える中小工場の優れたものづくりなど，日本の工業の特色を捉えている。また，工業生産は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解している。

4. 指導にあたって

(1) 教材について

本小単元では，日本の工業の特色や中小工場のものづくりについて学習することで，工業生産が国民生活を支えていることに気づかせ，これからも日本の工業生産を続けていくためにどのようにしていけばよいかを考えさせる。そこで，各種資料から特色を読み取り，具体的な事例を通して技術の高さや生産者の思いを理解させ，日本でものづくりをすることの重要性を捉えさせる。

また，「深める」段階では，工業生産の大単元全体を振り返る必要がある。そこで，原材料の確保，貿易や運輸，技術の向上，環境への配慮などの視点から，日本の工業のこれからのについて考えられるようにする。

(2) 指導上の工夫・留意点

本小単元は，資料の読み取りが中心で概括的な学習になりやすいが，様々な工業製品が暮らしを豊かにしていることを具体的におさえ，工業の大切さを感じさせたい。そのうえで，工業生産をめぐる課題を取り上げ，日本の工業生産の強みを生かすという視点で解決のための手立てを考えさせたい。しかし，簡単に解決策が見出せる課題ではないため，これまでの学習をもとに多面的に考え

ることができるように視点を示し、効果的な話し合いになるよう工夫する必要がある。

5. 小単元の指導（総時数 7 時間）

時数	ねらい	○学習活動
① (つかむ)	生活が様々な工業製品に支えられていることや日本の工業生産の傾向を捉え、日本の工業に対して関心をもつことができるようにする。	○工業製品の仲間分けをしたり日本の工業生産額の変化を読み取ったりして、日本の工業についてわかったことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくる。
① (調べる)	工業のさかんな地域について調べ、その地域で工業がさかんな理由を考えることができるようにする。	○工業のさかんな地域とそれぞれの地域の特色を地図や統計資料などから読み取り、さかんな地域の分布について考え、話し合う。
① (調べる)	日本の工業における大工場と中小工場の生産の様子を資料から読み取り、それぞれの生産の特色と役割について考え、まとめることができるようにする。	○大工場と中小工場の生産の特色について、写真や統計資料などから読み取り、ノートなどにまとめる。
① (調べる)	大田区の中小工場で働く人の工夫や努力に気づくとともに、中小工場の高い技術が日本の工業生産を支えていることに気づくことができるようにする。	○写真や働く人の話などを通して、大田区の中 小工場のものづくりの様子を調べ、中小工場 の工夫や努力について話し合う。
① (調べる)	アイデアを生かした東大阪市の中小工場の工夫や努力を資料から読み取り、日本の工業生産を支える中小工場のものづくりの特色について捉えることができるようにする。	○写真や働く人の話などを通して、東大阪市の 中小工場のものづくりの様子を調べ、大田区 のものづくりとも比べながら、気づいたこと を話し合う。
① (まとめる)	心を豊かにする工業生産について調べ、人々の生活との結びつきから工業生産の役割や意味について捉え、今後目指していく工業生産のあり方について考えることができるようにする。	○心を豊かにする工業生産について、具体的な 製品の例をもとに調べ、工業生産が人々の生 活に果たす役割や意味について話し合い、こ れからの工業生産のあり方について考えを まとめる。
① (深める)	日本の工業生産が抱えている課題を捉え、これからの工業生産にとって大切なことを考えることができるようにする。	○日本の工場数の減少をグラフから読み取り、 日本の工業生産が抱える課題をこれまでの 学習をもとに話し合い、これからの工業生産 について考える。

6. 本時の指導（第 7 / 7 時）

(1) 本時のねらい

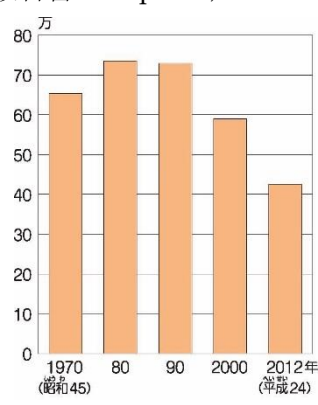

日本の工業生産が抱えている課題を捉え、これからの工業生産にとって大切なことを考えることができるようにする。

(2) 本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本時は、日本の工業生産について扱う大単元の最後の時間となるため、「大単元のまとめ」という位置づけとなる。そのため、これまで使った資料をもとに学習を振り返り、話し合うことで、これからの日本の工業が発展していくための手立てを考えていきたい。

そこで、工業生産の現状や特色を「強み」と「課題」という点で整理する。そのうえで、原材料の確保、貿易や運輸、新しい技術の開発、環境保全などの視点を見出せるようにする。それらの視点をもとにグループで話し合い、「強みをより生かすため」あるいは「課題を克服するため」の手立てを考える。グループ活動ならば、各自の教科書を持ち寄ることで、違うページの資料を一覧できるので、関連付けがしやすい。最後に、話し合ったことを学級全体で共有し、自分の考えをまとめていけるとよい。

(3) 本時の展開

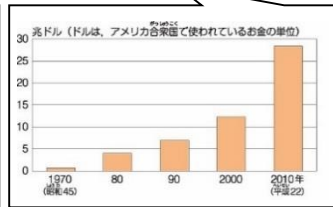
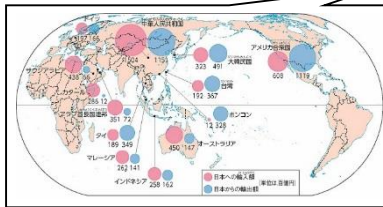
時配	○学習活動 T:発問 C:児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価												
10	<p>○これまでの学習の内容を振り返る。</p> <p>T:自動車の生産から始まり、これまで日本の工業について学習してきました。日本の工業の強みは、どんなところだったでしょう。</p> <p>C:消費者のニーズに応え、環境に配慮している。</p> <p>C:大工場と関連工場が協力している。</p> <p>C:人とロボットが協力している。</p> <p>C:優れた製品や高い技術を輸出している。</p> <p>T:では、課題はあるでしょうか。</p> <p>C:工場の数、工業の働き手が減っている。</p> <p>C:資源を輸入に頼っている割合が多い。</p> <p>C:環境にもっと配慮しないといけない。</p> <p>C:自由な貿易によって、安い外国製品が増えるかも。</p> <p>T:原材料の確保、貿易や運輸、技術、環境といった点がこれからの日本の工業のキーワードになりそうですね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>課題</p> <p>これからも日本の工業が続いていくためには、どのようなことに力を入れていけばよいだろう。</p> </div>	<p>◎資料 ◇留意点 ◆評価</p> <p>◎ア日本の工場の数の変化 (教科書 5 上 p.155)</p>  <table border="1" style="display: none;"> <caption>日本の工場の数の変化 (単位: 万)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>工場の数 (万)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1970 (昭和45)</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>80</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>90</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>2000</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>2012年 (平成24)</td> <td>43</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎日本の主な輸出入品の変化 (同 p.136 ア イ)</p> <p>◎日本の工業生産額の変化 (同 p.143 オ)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>資料を関連付けるように指導し、既習を深められるようにする。グループ活動だと、資料を比較・関連付けしやすい。</p> </div>	年	工場の数 (万)	1970 (昭和45)	65	80	75	90	73	2000	60	2012年 (平成24)	43
年	工場の数 (万)													
1970 (昭和45)	65													
80	75													
90	73													
2000	60													
2012年 (平成24)	43													
15	<p>○これからの日本の工業の発展について、強みをさらに生かすため、あるいは課題を解決するための手立てを、グループごとに話し合う。</p> <p>T:では、キーワードをもとに、資料を関連付けながら、これからの日本の工業をどのように進めていけばよいと思うか、グループで話し合ってみましょう。</p>													

10

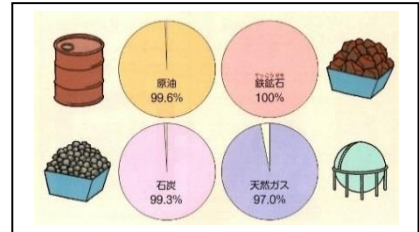
○各グループの意見をもとに、学級全体で話し合う。

T: それでは、出てきた意見を発表しましょう。

C: 貿易相手は世界中にあり、貿易額も年々増えているので、外国と仲良くすることが大切です。



◇複数の資料を関連付けて考えることで、これまでの学習を生かし、根拠をもって考えをまとめられるようにする。



C: 日本は資源が少ないので、貿易を活発にしたり、技術を提供したりして外国と仲良くすることが大切です。

C: 外国の人により製品を買ってもらうため、現地生産を増やして外国の人に働いてもらうと仲良くなれそう。

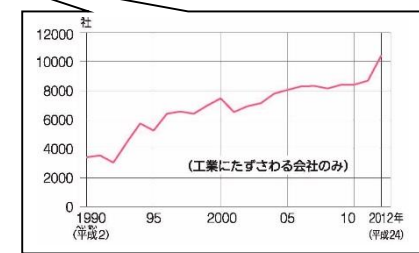
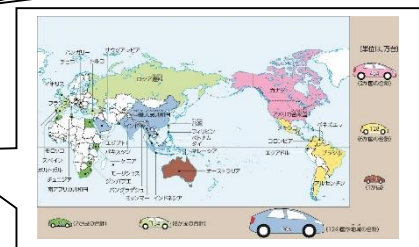
C: 日本の工場の数や働き手が減っているなかで、これ以上現地生産を進めると日本の工業が衰退してしまうよ。

C: 日本の中小工場は新しい技術を開発する力があつたから、多少高くても国内での生産を大切にすべきだよ。

C: でも、輸出すると輸送に費用がかかるし、環境にもよくないと思うよ。

C: 自動車生産のように、廃棄物のリサイクルや環境にやさしい製品を増やす取り組みが大切だよ。

T: 様々な意見が出てきました。どれか一つのことをすれば解決する、というような、簡単な問題ではないですね。どんな手立てをとるにしても、そのよさと、気をつけるべきことがありますよね。



◇それぞれの手立てのよい点、問題点が明らかになるように話し合いを進め、単純な解決策はないということを意識づける。

10

○話し合ったことをもとに、自分なりの考えをまとめる。

T: それでは、話し合ったことをもとに自分なりの考えをノートにまとめてみましょう。

C: 中小工場は、規模は小さいけれど高い技術をもっているの、もっと世界中に知ってもらえるように、国や県も後押ししていくとよいと思う。

C: 現地生産を進めると技術の流出につながるの、外国人が日本で働きやすいようにして、協力すればよいと思う。

C: 日本は資源が少ないので、外国と貿易を続けられるよう仲良くしないといけない。よい製品を積極的に輸出して、外国からもっと信頼してもらえばよいと思う。

◇これまで学習してきたことをもとに、現状を把握しつつ、提示された視点に沿って考えを書けるようにする。

◆調べてきたことを根拠に、これからの日本の工業生産について考えようとしている。(関・意・態/ノート)

つかむ

調べる

まとめる

深める

～複数の資料を比較・関連付け・総合し、多面的に社会的事象を捉え、考えを深める活動～

1. 小単元名『工業の今と未来』

(教科書：『小学社会 5 上』 p.142～155／学習指導要領：内容（3）ア、イ、ウ）

2. 小単元の目標

さかんな工業の種類や工業地域、大工場と中小工場それぞれの生産の様子など、日本の工業の特色を捉えさせる。また、高い技術やアイデアを生かし、心の豊かさをもたらす工業生産が進められていることを捉えさせるとともに、これからの工業生産について考えさせる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
生活が様々な種類の工業製品に支えられていることに気づき、日本の工業生産の特色について、興味をもって調べようとしている。	海沿いや一部の内陸部で工業生産がさかんな理由について、土地の条件や交通網の発達と関連付けて考え、表現している。また、工業生産と人々の生活を関連付けて、工業生産は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考え、表現している。	大工場や中小工場の特色について、資料から読み取ったことをノートや教科書にまとめている。また、高い技術を生かしてものづくりをする中小工場の工夫や努力について、必要な情報を資料から読み取り、ノートにまとめている。	工業がさかんな地域の分布や、生産の割合が大きい工業の種類、日本の工業生産を支える中小工場の優れたものづくりなど、日本の工業の特色を捉えている。また、工業生産は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解している。

4. 指導にあたって

(1) 教材について

本小単元では、工業地域の分布や大工場・中小工場の違いなどを読み取る統計資料を多く活用しながら、学習を展開する。児童に習得させるべき基礎的・基本的な技能として、統計資料の読み取り方や読み取る視点などを丁寧に指導する必要がある。そのうえで、それらの読み取った情報を比較・関連付け・総合し、日本の工業生産の特色を考え、表現させることで、知識・理解の定着を図る。

また、これまでの学習を生かしながら、これからの日本の工業生産の方向性について考える活動を通して、子どもたちが明るい展望をもてるようにしたい。

(2) 指導上の工夫・留意点

本小単元は、大単元のまとめに位置づく単元でもある。そのため、わが国の工業生産の現状や課題ばかりではなく、「日本の工業生産の強み」を再認識させることも重要である。これまでに学習してきた、ものづくりの技術や人々の思いを振り返り、世界に通用する日本の工業生産や工業製品について、自信や誇りを感じられるように、話し合い活動を設定した。

5. 小単元の指導（総時数7時間）

時数	ねらい	○学習活動
① (つかむ)	生活が様々な工業製品に支えられていることや日本の工業生産の傾向を捉え、日本の工業に対して関心をもつことができるようにする。	○工業製品の仲間分けをしたり、日本の工業生産額の変化を読み取ったりして、日本の工業についてわかったことや疑問を話し合い、学習問題をつくる。
① (調べる)	工業のさかんな地域について調べ、その地域で工業がさかんな理由を考えることができるようにする。	○工業のさかんな地域とそれぞれの地域の特色を地図や統計資料などから読み取り、さかんな地域の分布について考え、話し合う。
① (調べる)	日本の工業における大工場と中小工場の生産の様子を資料から読み取り、それぞれの生産の特色と役割について考え、まとめることができるようにする。	○大工場と中小工場の生産の特色について、写真や統計資料などから読み取り、ノートなどにまとめる。
① (調べる)	大田区の中小工場で働く人の工夫や努力に気づくとともに、中小工場の高い技術が日本の工業生産を支えていることに気づくことができるようにする。	○写真や働く人の話などを通して、大田区の中小工場のものづくりの様子を調べ、中小工場の工夫や努力について話し合う。
① (調べる)	アイデアを生かした東大阪市の中小工場の工夫や努力を資料から読み取り、日本の工業生産を支える中小工場のものづくりの特色について捉えることができるようにする。	○写真や働く人の話などを通して、東大阪市の中小工場のものでづくりの様子を調べ、大田区のものづくりとも比べながら、気づいたことを話し合う。
① (まとめる)	心を豊かにする工業生産について調べ、人々の生活との結びつきから工業生産の役割や意味について捉え、今後目指していく工業生産のあり方について考えることができるようにする。	○心を豊かにする工業生産について、具体的な製品の例をもとに調べ、工業生産が人々の生活に果たす役割や意味について話し合い、これからの工業生産のあり方について考えをまとめる。
① (深める)	日本の工業生産が抱えている課題を捉え、これからの工業生産にとって大切なことを考えることができるようにする。	○日本の工場数の減少をグラフから読み取り、日本の工業生産が抱える課題をこれまでの学習をもとに話し合い、これからの工業生産について考える。

6. 本時の指導（第7／7時）

（1）本時のねらい

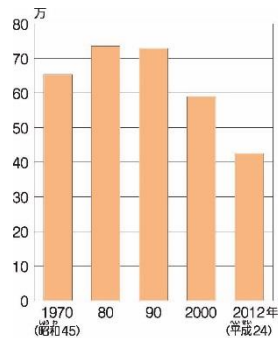
日本の工業生産が抱えている課題を捉え、これからの工業生産にとって大切なことを考えることができるようにする。

（2）本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本小単元で児童に考えさせなければいけないことは、「工業生産が自分たち国民の生活を支えていること」である。そこで、「工業生産が停滞すると、国民の生活に悪影響を及ぼす」ことを切実に感じさせる必要がある。そこで本時では、「日本の工場の数の変化」と「製造業で働く人口の変化」のグラフから、工場の数や工業における労働人口が減っていることを読み取らせ、日本の工業生産の課題に気づかせる。そして、「これからの食料生産」での学習を想起させることで、日本の工業生産の停滞とともに輸入に頼ってしまうことの危険性も思い起こさせる。

そのうえで、これまでに学習してきたことを生かしながら、日本の工業生産の特色や強みなどを再認識し、「現在の日本の工業生産の課題」を克服するために、これからの日本の工業生産はどうあるべきかを考えさせる。また、あくまでも本時は考えを「深める」過程であるため、学級全体のまとめは必ずしも必要なく、一人ひとりの思考を大切に、オープンエンドで大単元を締めくくるようにしたい。

（3）本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
10	<p>○これまでの学習を振り返り、日本の工業生産の課題を話し合う。</p> <p>T：これまで、日本の工業生産に携わる人々の工夫や努力、日本の工業生産の特色について学習してきました。しかし、日本の工業生産には、課題もあります。アのグラフを見て、分かることは何ですか。</p> <p>C：1990年から、工場の数が減っています。</p> <p>C：1990年と2012年を比べると、30万も減っています。</p> <p>T：どうして工場の数が、減ってしまったのでしょうか。</p> <p>C：海外から安い製品が輸入されているからだと思います。</p> <p>C：工場で働く人が減ってしまったのだと思います。</p> <p>T：このまま日本の工場が減っていくと、どうなりますか？</p> <p>C：日本の製品がなくなってしまう。</p> <p>C：日本の景気が悪くなって、働く人もさらに減ってしまうと思います。</p>	<p>◎ア 日本の工場の数の変化 (教科書5上 p.155)</p> <p>◇国内の工場数の減少をグラフから読み取らせ、日本の工業生産のこれからについて考えるきっかけとする。</p>  <p>◇工場数の減少（工業生産の停滞）がもたらす影響について、具体的に考えさせる。</p>
10	<p>○グラフから読み取ったことをもとに、日本の工業生産の課題を考える。</p>	

T: では実際に、工場で働く人も減っているのかどうか、調べてみましょう。グラフから分かることは、何ですか。

C: 工場で働く人も減ってきています。

C: 40年間で、400万人も減っています。

T: それでは、二つのグラフを比べると、どのようなことが分かりますか。

C: 1990年から、工場も働く人も減っています。

T: 工場と働く人は、それぞれいちばん多い時から比べると、どのくらいの割合で減っていますか？

C: 工場が半分近く減っているのに、働く人は3分の1ぐらいいく減っていません。

C: 工場が多く減っているのに、働く人がそこまで減っていないのは、働く人が少ない中小工場のほうが減っていて、大きな工場はあまり減っていないからだと思います。

T: 日本の工業生産を支えている中小工場や、そこで働く人が減ってきてしまっていることが課題なのですね。

課題

日本の工業生産の課題を解決するには、どのようにすればよいのだろうか。

15 ○日本の工業生産の課題を解決するための方法を考え、グループで話し合う。

T: 日本の工業生産の課題を解決するためには、どのようなことが必要でしょうか。自分の考えをグループの中で発表し、話し合ひましょう。

T: 課題を解決する方法をグループで話し合ひて、まとめてみましょう。

10 ○グループごとにまとめた、解決の方法を発表する。

T: グループで話し合った解決の方法を発表してください。

C: 国内の中小工場が減ってきているので、これ以上減らないようにしないといけないと思います。

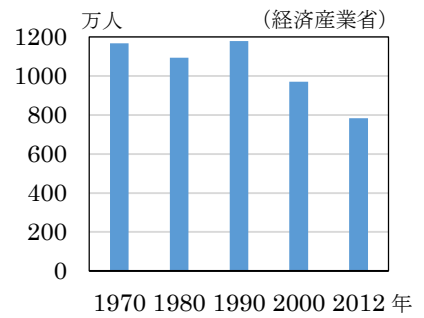
C: 大きな工場はあまり減っていないと思うので、中小工場の高い技術を大きな工場でも生かせるようにすればよいと思います。

C: 外国に輸出できる製品を開発すればいいと思います。

まとめ

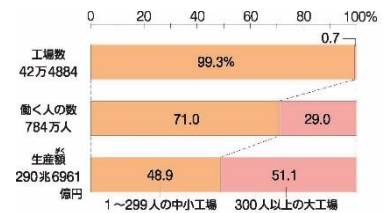
国内の中小工場の数が減っているなかで、日本の工業がもつ強みを生かし、生産を続けていくためにはどうすればいいのか、考えていくことが大切である。

◎製造業で働く人口の変化



新たな資料として、「製造業で働く人口の変化」のグラフを追加し、比較・関連付け・総合する視点をもたせ、児童の思考を促す。

◇工場数と労働人口の変化が関連付けられない場合は、教科書 p.146 **ウ**のグラフを提示する。



◆学習したことをもとに、これからの日本の工業生産にとって大切なことは何か、関心をもって考えようとしている。
(関・意・態/ノート)

◇オープンエンドとし、児童が日本の工業生産のこれからについて考えていくきっかけとなるようにまとめる。

つかむ

調べる

まとめる

深める

～情報の伝達と影響について学習の見通しがもてる活動～

1. 小単元名『情報を伝える人々』

(教科書：『小学社会 5下』 p.4～11／学習指導要領：内容（4）ア）

2. 小単元の目標

緊急時の情報の伝え方やニュース番組づくりを例に、情報産業やメディアの役割について調べ、情報が自分たちの生活に大きな影響を及ぼしていることを捉えさせる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
大切な情報が多くの 人にすばやく届けられ る仕組みについて興味 をもち、学習問題をつ くって意欲的に調べよ うとしている。	情報を広く伝えるマ スメディアの役割につ いて調べたことをもと に、マスメディアの情報 発信における影響の大 きさや責任について考 え、適切に表現してい る。	教科書の写真や図か ら、様々なメディアを通 じた情報の発信の様子 について正確に読み取 っている。	情報を伝える人々の工 夫や努力、情報を伝える 際に気をつけていること などを理解している。ま た、様々なメディアの特 色を理解し、状況や手に 入れたい情報に応じてメ ディアを使い分けること の必要性を捉えている。

4. 指導にあたって

(1) 教材について

本小単元では、情報化の進展に伴い、私たちの日常生活は非常に多くの情報に囲まれ、それらの情報によって生活が支えられていることを捉えさせる。その手がかりとして、広く情報を発信する情報産業に携わる人々の仕事を扱う。放送局で働く人々は、情報とどのように向き合い、何を大切にしているのかについて着目させる。情報を鵜呑みにせず、発信者の意図なども考えながら受け取る姿勢も養っていききたい。

(2) 指導上の工夫・留意点

放送局などの情報産業に携わる人々が、正確な情報を迅速に伝える工夫や努力をしていることで、自分たちは知りたい情報を必要なときに入手できていることに気づかせる。それと同時に、情報はあくまでも誰かが編集し発信しているものだという意識をもたせるために、同じ出来事でも違った伝わり方になることを、同じ日の各社新聞記事を見比べる活動などを通して捉えさせたい。

正確かつ迅速な情報の重要性を特に強く感じるのは、災害発生時など緊急の場合である。そこで本時では、緊急地震速報の仕組みや、東日本大震災の被災地における情報伝達・活用の事例を調べることで、情報の果たす役割を具体的に捉えられるようにする。

5. 小単元の指導（総時数 4 時間）

時数	ねらい	○学習活動
① （つかむ）	緊急地震速報が届く仕組みなどを調べることを通して、大事な情報がどのように人々に伝えられ、生活に影響を及ぼしているかについて、学習問題をつくることができるようにする。	○緊急地震速報のような大切な情報が届けられる仕組みを調べ、情報を伝える人々のはたらきや情報が生活に及ぼす影響について、学習問題をつくる。
① （調べる）	テレビのニュース番組が放送されるまでの様子を調べ、情報を伝える放送局のはたらきについて捉えることができるようにする。	○テレビのニュース番組がどのようにつくられて放送されているのか、資料を読み取って調べ、わかったことを話し合っまとめる。
① （調べる）	震災時に人々がどのような手段で情報を入手していたのかを調べ、様々なメディアの特色や、それらを使い分けて情報を手に入れ、役立てることの必要性を捉えることができるようにする。	○東日本大震災の時に役に立ったメディアに関する資料などをもとに、自分たちが日頃、様々なメディアから情報を手に入れていることを調べ、その特色や活用の仕方について話し合う。
① （まとめる）	放送局や新聞社で働く人たちが様々な注意を払って情報を発信していることなどを調べ、マスメディアの情報と自分たちの生活との関わりについて考えることができるようにする。	○マスメディアが伝える情報の違いや影響について調べ、マスメディアが発信する情報と自分たちの生活との関わりについて話し合い、考えをまとめる。

6. 本時の指導（第 1 / 4 時）

（1）本時のねらい

緊急地震速報が届く仕組みなどを調べることを通して、大事な情報がどのように人々に伝えられ、生活に影響を及ぼしているかについて、学習問題をつくることができるようにする。

（2）本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本時では、写真資料 **イ**「地震で電車が止まった駅で、ニュースに注目する人々」から考えたことを友達と話し合う活動を取り入れ、表現し合えるようにしていく。話し合う際、二つの観点を示す。一つは「緊急時にはどのような情報を手に入れたいか」、もう一つは「なぜ情報を手に入れるのか」である。二つの観点を話し合わせることで、緊急時の情報がいかに大切であるか、また様々な方法で様々な情報を人々が必死で入手していることに気づかせたい。写真資料の中のテレビ画面の情報や人々の視線、情報を入手しようとしている手段などについても着目させるため、十分な話し合いの時間を確保する。資料 **イ** をもとに話し合った内容から、緊急時には正確かつ迅速に情報を伝えることが大切であることを理解できるようにする。大事な情報を入手することで、私たちの行動が変わり、影響が及ぼされることをおさえてから、学習問題をつくるようにする。また、**エ** の資料を用いて、新聞やインターネットなども多くの人が情報を入手するためのツールであることをおさえ、テレビ以外の情報伝達手段にも着目させる。緊急時の情報の伝達方法、生活経験などから考えた予想をもとに学習計画をつくり、単元全体の学習を見通し、児童の興味・関心の持続を図る。

(3) 本時の展開

時配	○学習活動 T:発問 C:児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
5	<p>○本時の課題を確認し、課題に対して予想をする。 T:(緊急地震速報の音を再生して) この音が鳴ったら、みんなはどのような行動をとりますか? C:机に隠れる。高いところに逃げる。 T:この情報を手に入れるために何が使えますか? C:テレビ。携帯電話。パソコン。 T:このような大切な情報は、みなさんのもとにどのように届いているのでしょうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>課題 わたしたちは、大切な情報をどのようにして手に入れているのだろう。</p> </div>	<p>◎緊急地震速報の音 ◇生活経験を引き出したり、災害時の状況を想定したりしやすくなるように、具体的な資料を提示する。 ◇どのような方法で情報を手に入れているのかを考えさせる。</p>
10	<p>○資料ウから速報が伝達される仕組みを話し合う。 T:地震を感知してから、私たちがいち早く大切な情報を手に入れるためには、何をすればよいでしょうか? C:携帯電話やテレビを使えばいいと思う。 T:携帯電話やテレビには、どのようにして緊急地震速報が伝えられているのでしょうか。資料ウを見てみましょう。 C:気象庁から放送局などを経て、様々な方法で私たちのもとに情報が届けられているんだね。 T:情報を発信している人の気持ちを、「放送局の長田さんの話」から読み取りましょう。 C:長田さんは、津波が来る前に情報を届けることで、すばやく安全な場所に避難し、身を守ってほしいと思っているんだね。 T:長田さんはどのような願いをもって、情報を発信しているのだろう? T:人々の安全確保を第一に考えている。だから、すばやく情報を伝達しようとしているんだね。</p>	<p>◎ア携帯電話に送られてくる緊急地震速報(教科書5下p.4) ◎ウ緊急地震速報がとどくまで(同p.5) ◇地震の発生から緊急地震速報が届くまでは、ほんの数秒であることをおさえる。 ◎放送局の長田さんの話(同p.5) ◇教師が読み上げる。わかったことに線を引きながら聞くよう指示する。 ◇放送局員の第一の願いは、視聴者の安全確保であり、そのために迅速に情報を伝えようとしていることをおさえる。 ◇情報が伝わることで、人々の行動が変わってくることに気づかせる。 ◇地震の仕組みについて簡単に説明する。</p>
10	<p>○資料イから、災害時に人々がどんな情報を得ようとしているか話し合う。 T:資料イは、地震の情報が駅のテレビで放送されているところの写真です。</p>	<p>◎イ地震で電車が止まった駅で、ニュースに注目する人々(同p.4)</p>



T: 緊急地震速報の他に、駅にいる多くの人々はどのような情報を手に入れたと思っているのでしょうか。また、なぜそのような情報を手に入れたのでしょうか。

C: (手に入れた情報)

→地震の大きさ/津波の範囲/電車が動き出す時間/家族の安否/電車以外の移動手段/地震発生場所

(手に入れた理由)

→安心したいから/安全が確保できるから/適切な行動をとるため

10 ○資料[エ]を読み取り、学習問題をつくる。

テレビ	100人当たり 92人
新聞・雑誌	100人当たり 60人
インターネット	100人当たり 57人
ラジオ	100人当たり 25人

T: 大切な情報を手に入れるため、様々な手段を使うことができますが、何がいちばん使われているのでしょうか。

C: 新聞や雑誌、インターネットやラジオからも、情報を手に入れているね。その中でも、テレビがいちばん多いようだね。

T: これから、何について具体的に調べていきたいですか? みんなで学習問題をつくりましょう。

C: 普段のニュースはどのようにして届けられているのかな。

C: 新聞の情報の伝え方はどうなっているのかな。

学習問題

多くの人々が利用する情報は、どのように伝えられ、わたしたちの暮らしにどのような影響を与えているのだろう。

◇[イ]を本時の中心資料として用い、写真の中のテレビ画面や人々の視線、通信手段に着目できるようにする。

◇資料の読み取りを充分に行えるよう、話し合いの時間を確保する。

◇緊急地震速報や津波警報を実際に見聞きした経験と合わせて、その内容や重要性を捉えさせる。

◎[エ]国内のニュースを何から得ているか (同 p.5)

◇テレビだけでなく、新聞など他の情報伝達手段についても関心が向くよう、資料を提示する。

◇様々な方法で情報は伝達されていることに気づかせる。

◇マスメディアの情報が多くの人々の生活に影響を及ぼすことについて、テレビ視聴率を具体的な人数に変換するなど、わかりやすい例を提示して意識づける。

◆テレビや新聞などで伝えられる情報が、自分たちの生活に与える影響について、調べる学習問題を考え、表現している。

(思・判・表/ノート)

10 ○これからの活動に見通しをもつ。

T: 放送委員の人たちは、どのようにテレビ放送をしていますか?

C: 事前にビデオを撮っておきます。

C: 読むセリフを編集しています。

T: 実際のテレビでは、どのように情報を伝えているのでしょうか。次回から調べていきましょう。

◇テレビから情報を得る人が多いことを資料[エ]から読み取り、テレビでの情報伝達の様子について調べていくことを確認する。

つかむ

調べる

まとめる

深める

～調べる視点を明確にして表にまとめることで、様々なメディアの特色を考える活動～

1. 小单元名『情報を伝える人々』

(教科書：『小学社会 5下』 p.4～11／学習指導要領：内容（4）ア)

2. 小单元の目標

緊急時の情報の伝え方やニュース番組づくりを例に、情報産業やメディアの役割について調べ、情報が自分たちの生活に大きな影響を及ぼしていることを捉えさせる。

3. 小单元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
大切な情報が多くの 人にすばやく届けられ ている仕組みについて 興味をもち、学習問題 をつくって意欲的に調 べようとしている。	情報を広く伝えるマ スメディアの役割につ いて調べたことをもと に、マスメディアの情報 発信における影響の大 きさや責任について考 え、適切に表現してい る。	教科書の写真や図か ら、様々なメディアを通 じた情報の発信の様子 について正確に読み取 っている。	情報を伝える人々の工 夫や努力、情報を伝える 際に気をつけていること などを理解し、状況や手 に入りたい情報に応じて メディアを使い分けるこ との必要性を捉えてい る。

4. 指導にあたって

(1) 教材について

本小单元では、緊急時の情報の伝え方やニュース番組づくりを例に、放送、新聞などのメディアの役割や、情報が生活に与える影響について学習する。情報の伝え方や伝える人たちの工夫や努力を調べさせていくことで、情報の果たす役割の大切さについて捉えさせるようにする。また、東日本大震災の時の避難所の写真資料などを使い、当時の状況を考えさせていくことで、情報を受け取る側が置かれた状況によって、メディアを使い分ける必要があることをつかませたい。さらに、情報を発信する側と受け取る側の思いをそれぞれ考えさせることで、マスメディアの情報発信が自分たちの生活に大きな影響を与えていることを捉えさせる。

(2) 指導上の工夫・留意点

本小单元では、テレビのような見慣れたメディアから、ラジオなど児童にとってはあまり馴染みがないと思われるメディアまで取り扱うため、今までの児童の生活経験について状況を把握しておく必要がある。馴染みのないメディアについては、現物を用意して提示するなど、できるだけ具体物や具体的な場面を取り出して自分たちの生活と資料を関連付け、興味・関心を引き出しながら授業を進められるようにしたい。各種メディアの特色については、児童に身近なテレビと比較することで、読み取ったことを整理していけるよう配慮する。また、調べてわかったことをペアやグループで話し合う時間を設けることで、活発な意見交換を促し、情報の共有や思考の深まりを図りたい。

5. 小単元の指導（総時数 4 時間）

時数	ねらい	○学習活動
① (つかむ)	緊急地震速報が届く仕組みなどを調べることを通して、大事な情報がどのように人々に伝えられ、生活に影響を及ぼしているかについて、学習問題をつくることができるようにする。	○緊急地震速報のような大切な情報が届けられる仕組みを調べ、情報を伝える人々のはたらきや情報が生活に及ぼす影響について、学習問題をつくる。
① (調べる)	テレビのニュース番組が放送されるまでの様子を調べ、情報を伝える放送局のはたらきについて捉えることができるようにする。	○テレビのニュース番組がどのようにつくられて放送されているのか、資料を読み取って調べ、わかったことを話し合っまとめる。
① (調べる)	震災時に人々がどのような手段で情報を入手していたのかを調べ、様々なメディアの特色や、それらを使い分けて情報を手に入れ、役立てることの必要性を捉えることができるようにする。	○東日本大震災の時に役立ったメディアに関する資料などをもとに、自分たちが日頃、様々なメディアから情報を手に入れていることを調べ、その特色や活用の仕方について話し合う。
① (まとめる)	放送局や新聞社で働く人たちが様々な注意を払って情報を発信していることなどを調べ、マスメディアの情報と自分たちの生活との関わりについて考えることができるようにする。	○マスメディアが伝える情報の違いや影響について調べ、マスメディアが発信する情報と自分たちの生活との関わりについて話し合い、考えをまとめる。

6. 本時の指導（第 3 / 4 時）

(1) 本時のねらい

震災時に人々がどのような手段で情報を入手していたのかを調べ、様々なメディアの特色やそれらを使い分けて情報を手に入れ、役立てることの必要性を捉えることができるようにする。




(2) 本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本時では、テレビや新聞、ラジオ、インターネットなどのメディアの特色を理解させ、状況に応じて様々なメディアを使い分けることの重要性を捉えさせたい。そのため導入では、被災地で使われていたメディアが、児童に馴染みのあるテレビではないことに注目させる。被災地の人がどのような方法で必要な情報を得ていたのかを写真資料から調べて、なぜ自分たちが普段からよく使っているテレビを利用していないのかに注目させる。その理由を予想させることで、置かれた状況や欲しい情報に応じて、使用するメディアも変わってくることを全体で共有できるようにする。

そして、ワークシート『こんなとき使うメディアはどれ?』を使って、ペアで様々なメディアの特色についてまとめ、考える活動を設定する。教師は「こんなとき」の条件を視点として与え、児童はそれらに理由をつけて表にまとめていくことで、様々なメディアの特色に気づけるようにしていきたい。その際、新聞・ラジオなど、用意できるものは教師が実物を用意して、児童が理由を考える際に役立てられるようにする。その後、発表の中で出てきた意見を整理し、メディアごとの特色を児童がまとめられるようにする。

このように、教師が調べる視点を明確にして、ペアで考えまとめる活動を設定することで、児童が主体的に表現できる場面をつくり、メディアの特色や使い分けの必要性を捉えさせることができると考えた。

(3) 本時の展開

時配	○学習活動 T:発問 C:児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
10	<p>○ア, イの写真を見て、なぜテレビやインターネットではなく、新聞や伝言メモで情報を得ようとしているのかを予想する。</p> <p>T: 前回、テレビのニュース番組づくりにおける工夫や努力を学習しました。でも、テレビではなく、他のものを利用している人たちがいます。これは東日本大震災の時の写真です。どのような手段で、情報を集めようとしていますか。</p> <p>C: 新聞です。</p> <p>C: 壁にたくさんはってある、メモのようなものを見えています。</p> <p>T: なぜ新聞やメモで、情報を集めているのでしょうか。</p> <p>C: 電気がないからだと思います。</p> <p>C: テレビを見ることができないからです。</p> <p>C: 携帯電話やパソコンのインターネットが通じないからです。</p> <p>T: 大きな災害が起こると情報を得る方法も変わってきそうですね。そこで、今日はこのことについて調べてみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>課題</p> <p>テレビの他に、どのようなものを通じて情報は広く伝えられているのだろう。</p> </div>	<p>◎ア新聞を読む避難所の人々 (教科書 5 下 p.8)</p>  <p>◎イ避難所にはられた、伝言メモ (同 p.8)</p>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>資料の見方を確認し、視点やヒントを与えて予想させる。</p> </div> <p>◇情報を得る側の立場になって考えるよう助言する。</p>
5	<p>○テレビや新聞の他に思いつくメディアを挙げ、それらのメディアはどのような場合に使われるのかを話し合う。</p> <p>T: テレビや新聞のように、私たちに情報を伝えてくれる物や手段のことをメディアといいます。テレビの他に、みんなの周りにはどんなメディアがありますか。</p> <p>C: インターネット (パソコン・スマートフォン) です。調べたいことがあるときに使います。</p> <p>C: 新聞です。天気予報をすぐに知りたいときなどに見ます。</p> <p>C: ラジオです。車の中で交通情報が流れていたのを覚えています。</p>	<p>◎ウ避難所にはり出されたかべ新聞 (同 p.9)</p> <p>◎エ被災地へ生活の情報を知らせるラジオ放送 (同 p.9)</p>  <p>◇教科書の文章や写真などは、出た意見を補足する資料として活用する。</p> <p>◎実物のラジオ (ポケット式・充電式)</p> <p>◎実物の新聞</p>
15	<p>○具体的な場面を想定して (次頁ワークシート例参照)、どのメディアから情報を得るのがよさそうかをペアで考え、まとめる。</p> <p>T: テレビは、大きな災害が起こった場合、情報を得やすいメディアとはならなそうだとすることが先ほどわかりました。では、このワークシートを見てください。こんなとき、みんなはどのメディアを使いますか。ペアで理由も考え、表を完成させましょう。</p>	

C:「詳しく知りたいとき」は、インターネットがいいと思います。自分が気になる言葉で検索できるからです。

C:「詳しく知りたいとき」は、新聞でもいいと思います。「詳しくは〇〇に掲載」という文が1面であって、中をよく見ていくと、1面の内容がさらに詳しく載っていることがわかったからです。

C:「情報を残しておきたいとき」は新聞がいいと思います。記事を切り抜いて残せるので、何度も読んで確認することができます。

C:「駅で調べたいとき」はラジオがいいと思います。小さいので運ぶのが楽し、電池一つでいつでも使えるからです。

C:「駅で調べたいとき」はスマートフォンがいいと思います。ラジオと同じで小さいので運びやすく、電車で利用している人をよく見かけるからです。

◎津波によって打ち上げられた船 (同 p.40)



◎ワークシート (下図)

「停電になったら」の項目は教師が東日本大震災の時の写真を使って表を埋め、活動のモデルを示し、児童に見通しをもたせる。

ワークシート例

○こんなとき使うメディアはどれ？

	テレビ	新聞・雑誌	インターネット スマートフォン	ラジオ	どんなメディアが使いやすい？
(例) 停電になったら	×	△	○	○	電池で動くメディア
詳しく知りたいとき	△	○	○	△	疑問に思ったことを調べやすいメディア
情報を残しておきたいとき	×	○	×	×	見返すことのできるメディア
駅で調べたいとき	×	○	○	○	持ち運びできるメディア

- 10 ○話し合ったことをもとに、それぞれのメディアの特色を書く。
- T: 前回学習したテレビのニュース番組は、どのように情報を伝えていたでしょう。
- C: テレビでは、映像と音声で編集された、わかりやすい情報を伝えています。
- T: では今日話し合ってきたメディアには、テレビと比べてどんな特色がありましたか。
- C: インターネットは、回線がつながっていれば、いつでも知りたいことを詳しく知ることができます。
- C: ラジオは、身近な生活情報を知ることができ、電池一つでどこでも使うことができます。
- C: 新聞は文字や写真で情報を伝えます。自由に読み返せるところも、テレビとは違う特色です。

5 ○課題についてまとめる。

まとめ

情報はテレビ・ラジオ・新聞・インターネットなど様々なメディアを通じて伝えられている。特色に合わせて、メディアを上手に使い分けることが大切である。

- ◇テレビの特色については、前時の学習を生かして学級全体で文をまとめ、他のメディアのまとめの参考にする。
- ◎情報を伝えるさまざまなメディア (同 p.9)
- ◇は、出てきた意見を補足する資料とする。
- ◆各種メディアの特色を理解し、状況などに応じて使い分けることの必要性を捉えている。(知・理/ワークシート)

つかむ

調べる

まとめる

深める

～発信者・受信者の立場で、情報の活用のあり方を考える活動～

1. 小单元名『情報を生かすわたしたち』

(教科書：『小学社会 5下』 p.22～27／学習指導要領：内容（4）イ）

2. 小单元の目標

インターネットの利用が生活に与える影響について調べ、情報化が進んだ社会の中で、情報の発信者・受信者として気をつけるべきことや、情報を生活に生かしていくために大切なことを捉えさせる。

3. 小单元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
自分の体験や様々な資料をもとに、インターネットの利便性について意欲的に調べるとともに、利用に際して注意すべきことも積極的に考え出し、話し合おうとしている。	情報化が進んだ生活の中で、自分はどういうことに気をつけて暮らしていけばよいか考え、表現している。	情報化の進展の様子や、インターネットが生活にもたらす便利な点・不安な点などを、適切な資料を活用して読み取っている。	情報化が進んだ社会におけるインターネットの利便性や効率性などとともに、注意点や問題点についても理解している。

4. 指導にあたって

(1) 教材について

本小单元では、情報化の進展によって人々の生活の向上が図られていることを調べ、情報化した社会の様子と国民生活との関わりについて学習する。そして、情報化の進展が、国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや、情報の有効な活用が大切であることに気づかせるようにする。

前小单元までに、情報ネットワークが活用されている事例を調べ、情報化の進展が生活の向上に影響していることを学習している。また、身近な場面でも、インターネットを活用して情報を検索したり、動画などを視聴したりした経験がある児童が多く、情報ネットワークは児童にとって身近な存在になってきているといえる。

しかし、便利な点だけでなく、不安な点も理解したうえで、情報ネットワークを活用している児童は少ないと思われる。その結果、様々な問題が起きている現状もある。そのため本小单元では、情報ネットワークを活用するうえでの便利な点や不安な点、注意すべき点について、既習の内容や生活経験を振り返ったり、調べたことを手がかりにしたりして、情報の有効な活用が大切であることに気づかせ、自分の考えをまとめられるようにしていく。

(2) 指導上の工夫・留意点

情報の有効な活用が大切であることに気づかせるために、情報ネットワークの便利な点と不安な

点、情報を受信するときと発信するときなど、一つの側面からではなく複数の側面から考えさせる必要がある。単元の導入では、情報ネットワークの便利な点や不安な点を想起させる。この段階の児童にとって、情報ネットワークの便利な点や情報を受信するときの注意点については多数考えやすいが、不安な点や発信するときの注意点については思いつきにくい。そのため、次の時間では、情報ネットワークの利用に伴う不安な点について調べていく。さらに、自分が情報の発信者にもなりうるという自覚をもたせるため、情報の双方向性を意識づける必要もある。単元全体を通して、児童にとって身近な事例を取り上げたり、時事的な話題を提示したりして、情報ネットワークの利用に際しては不安な点もあることや、自分も情報の発信者であることを実感させながら、授業を展開していきたい。

そして、心情面からの思いだけではなく、社会的な思考としてまとめられるように、既習の知識を生かして考えたり、資料や事実などを比較・関連付けたりしたうえで、情報の有効な活用について考えさせることが重要である。

5. 小単元の指導（総時数4時間）

時数	ねらい	○学習活動
① （つかむ）	インターネットが広がることで、自分たちの暮らしがどのように便利になっているのかを考え、たくさんの情報の受信・発信に対して問題意識をもつことができるようにする。	○インターネットの普及によって生活が便利になっていることを調べ、インターネットによる様々なつながりや広がりをつまみ、情報を生活に生かしていくために大切なことを考える学習問題をつくる。
② （まとめる）	インターネットの利用に伴う不安な点について調べ、利用の際に気をつけなければいけないことについて考え、自分の言葉で表現できるようにする。	○インターネットを利用するときの注意点を自分たちの経験や具体的な資料をもとに考え、まとめる。
① （深める）	情報化が進んだ社会で生きていくために、自分たちは情報をどのように生かしていけばよいかを考え、情報を扱う際のルールづくりをすることで、学習を深めることができるようにする。	○自分たちは情報をどのように生かしていけばよいか、これまでの学習をもとにルールにまとめ、話し合う。

6. 本時の指導（第4／4時）

（1）本時のねらい

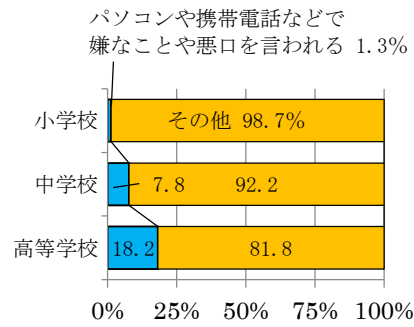
情報化が進んだ社会で生きていくために、自分たちは情報をどのように生かしていけばよいかを考え、情報を扱う際のルールづくりをすることで、学習を深めることができるようにする。

（2）本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本時は、各自で考えたルールについて表現し合うことで、複数の立場や視点から、情報を有効に活用することの大切さを考えられるようにする時間である。ねらいに沿ったルールづくりを行うた

めに、情報の利便性や情報化のもたらす様々な影響など、大単元全体の学習を偏りなく振り返る必要がある。また、受信者の側からのみ考えられたルールにならないように、身近な事例を取り上げつつ、誰でも発信者になりうることを意識づける。そのために、教科書5下 p.24～25の資料を振り返ることなども考えられる。そして、より多くの立場や視点からルールを考えようとして、条文の数を絞り込むようにする。絞り込みの際には、自分なりの理由を明確にさせる。個人で取り組むのが難しければ、グループ内でルールを発表し合いながら、絞り込んでいく活動も考えられる。そして、ルールの絞り込みを通して、それぞれのルールの価値を判断し、情報の有効な活用において、どのようなことが必要であるかを考え、表現できるようにする。

(3) 本時の展開

時配	○学習活動 T:発問 C:児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
3	○前時の学習内容や、学習問題のこたえを振り返る。 T:この单元では、インターネットの利用について、どのようなことを学習してきましたか。 C:様々な情報がどこでもすぐに調べられるので便利。 C:知らずに相手を傷つけてしまうことがある。 C:一人ひとりがルールを守ることが大切。	◇情報ネットワークの便利な点、不安な点など、様々な視点から振り返るように助言する。
7	○自分たちも情報の発信者になりうることに気づき、本時の課題をつくる。 T:この資料は、全国で発生したいじめの問題のうち、あるいじめの割合を表しています。何だと思えますか。 C:暴力。 C:からかい。 C:インターネット上の発言。 T:そうです。インターネット上の発言からも、いじめが起きています。いじめにつながる発言とは、どのような発言でしょうか。 C:相手が傷つく発言。 C:相手が嫌がる発言。 T:そのような発言は、誰がしているのですか。 C:悪い人たち。 C:自分たちの中の誰か。 T:教科書 p.25 の資料イを見てください。この中で問題となっている行動は、誰がしていると思えますか。 C:悪い人たち。 C:そういう人たちだけでなく、自分たちもしている。 T:このような問題が起きないようにするためには、どうすればよいでしょうか。 C:情報の扱い方に気をつける。 C:情報ネットワークを上手に活用するルールをつくる。	◎パソコンや携帯電話などを通じたいじめの割合(グラフ)  (文部科学省『児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(平成26年度)』より) ◇情報の発信者としての実感や責任感をもたせるために、児童にとって切実な事例(いじめの問題)を取り上げる。 ◎インターネットで起きた問題について、警察が受けた相談の割合(教科書5下 p.25 伊)

	<p>T:今日は、情報を上手に活用するためのルールについて考えましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題</p> <p>情報を上手に活用するためには、どのようなルールが必要だろう。</p> </div>	
<p>25</p>	<p>○「情報ルール」を各自で考え、それぞれが考えたルールについて話し合う。</p> <p>T:「情報ルール」には、どのような内容を入れたらいいでしょうか。たくさん考えられると思いますが、ルールにまとめるのは三つまでとします。なぜ、その三つに絞り込んだのか、ということも大事になるので、忘れないでください。</p> <p>C:正しい情報なのか確かめる。</p> <p>C:緊急のときに連絡がとれるネットワークを活用する。</p> <p>C:相手のことを考えた内容で情報を出すようにする。</p> <p>C:自分が出す情報の内容には責任をもつ。</p> <p>C:個人情報、むやみに書き込まない。</p> <p>T:それぞれ、考えたルールを発表しましょう。聞くときには、そのルールを入れた理由にも注目すると、友達の考えがよくわかります。</p> <p>C:ぼくは「緊急のときに連絡がとれるネットワークを活用する」というルールを入れました。情報ネットワークは便利なものであるということを伝えたいからです。</p> <p>C:私は「個人情報、むやみに書き込まない」というルールを入れました。発信する情報の内容には、注意が必要だと思ったからです。</p>	<p>◇考えを絞り込む活動につなげるために、最初はより多くのルールを考案させる。</p> <p>◇絞り込む際の理由を明確にさせるために、まとめるルールの数を制限する。ルールの数は、児童の実態に応じたものとするが、3～4項目程度にすることが望ましい。</p> <p>◇友達の絞り込みの理由をしっかりと聞かせることで、本時の学習内容をまとめる手がかりとなるようにする。</p>
<p>10</p>	<p>○本時の課題についてまとめる。</p> <p>T:情報を上手に活用するためには、どのようなルールが必要だと思いますか。ノートにまとめましょう。</p> <p>C:情報ネットワークを活用するときは、個人情報の扱いに注意しながら、どこでもすぐに情報が引き出せるよさも生かしていきたいです。</p> <p>C:様々なメディアを使ってたくさんの情報が簡単に調べられるので、とても便利ですが、その情報の正確さを確かめることも必要です。</p>	<p>◇情報ネットワークの利便性と注意点など、複数の視点から考え、表現されている意見を称賛する。</p> <p>◆情報ネットワークの利便性や不安な点などをふまえながら、情報の活用の際に注意すべきことを考えようとしている。 (関・意・態/ノート)</p>

つかむ

調べる

まとめる

深める

～自然災害への対策を比較・分類することで、防災や減災について考えをまとめる活動～

1. 小単元名『自然災害とともに生きる』

(教科書：『小学社会 5下』 p.40～47／学習指導要領：内容（1）エ）

2. 小単元の目標

日本では様々な自然災害が起こり、それらは国土の自然の特色と関わっていることを理解するとともに、災害から暮らしを守るための様々な取り組みについて調べ、自分たちにもできる取り組みについて考えさせる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
自然災害から暮らしを守るためにどのような取り組みや工夫がなされているのか、意欲的に調べようとしている。	自然災害から暮らしを守るために、地域で協力してできることや自分にできることについて、調べたことをもとに考え、表現している。	日本で起こる自然災害と、災害から暮らしを守るための取り組みについて、様々な資料から適切に読み取り、わかったことをノートなどに整理している。	日本では様々な自然災害が発生し、それらの発生は国土の自然の特色と関係があることを理解している。また、災害から暮らしを守るために、様々な公共事業や地域での協力をもとにした活動が行われていることや、防災だけでなく減災の考え方も大切であることを理解している。

4. 指導にあたって

(1) 教材について

わが国は、地震や津波などの自然災害が頻繁に起きる国土であり、古くから人々の生活と自然災害とが密接に関連している。そして、今後も大規模な地震の発生が懸念されているのが現状である。本小単元では、わが国の国土では自然災害が起こりやすいことや、それらの自然災害に対して、国や都道府県などが様々な対策や事業を進めていることを調べ、自然災害の防止と国民生活との関わりについて学習する。そして、国民一人ひとりの防災意識を高めることの大切さに気づかせるようにする。なお、なんらかの災害で被災した地域や、被災者のいる地域や学級では、実情に応じた教材の扱いが必要となる。

(2) 指導上の工夫・留意点

本小単元の導入では、わが国で過去に起きた自然災害について調べる。その際には、国土の地形や気候についての学習を振り返り、自然条件の特色と自然災害を関連付けて考えさせるようにする。

また、自然災害の被害の様子をつかむ資料として、東日本大震災の事例を取り上げることも考えられる。このように、先の震災から学ぶことは有意義であるが、被災の様子を伝える資料の扱いについては、子どもの心に与える影響にも配慮しなければならない。

そして、国や都道府県が進めている防災のための対策や事業について調べる。その際には、堤防の整備、ハザードマップの作成などの具体例を取り上げたり、自分たちの地域の取り組みについて触れたりして、児童が実感を伴って調べられるようにしたい。

最後に、自然災害を防ぐためには、国や都道府県の対策や事業、地域による取り組みだけでなく、自分自身の防災意識を高め、自分の身は自分で守れるようにすることが大切であり、それが「防災・減災」につながるということを考えさせるようにしたい。

5. 小単元の指導（総時数5時間）

時数	ねらい	○学習活動
② (つかむ)	日本で起こった自然災害を調べることを通して、自然災害と国土の自然環境との関係について考えるとともに、自然災害から暮らしを守るための取り組みについて、調べていく見通しをもてるようにする。	○日本の自然災害について、様々な資料をもとに調べ、自然災害と国土の自然環境との関係について話し合う。 ○自然災害から暮らしを守るための取り組みについて調べる学習問題をつくる。
① (調べる)	自然災害から暮らしを守るために、国や都道府県などが、施設の建設や避難場所の決定・周知といった様々な公共事業に取り組んでいることを理解できるようにする。	○自然災害から暮らしを守るための国や都道府県などの取り組みについて、各種資料から調べて発表し合い、自分たちの地域での取り組みについても話し合う。
① (調べる)	自然災害から暮らしを守るために、「減災」の考え方が広まっていることを捉える。	○災害から暮らしを守るために、地域で協力してできることや自分にできることについて、具体的な資料を通して考え、話し合う。
① (まとめる)	防災や減災の取り組みと自分たちとの関わりについてまとめるとともに、自然災害から暮らしを守るために、地域で協力してできることや自分にできることを考えられるようにする。	○これまで学習してきた災害への対策を図に整理してまとめ、災害から暮らしを守るために、地域で協力してできることや自分にできることについて考える。

6. 本時の指導（第5／5時）

(1) 本時のねらい

防災や減災の取り組みと自分たちとの関わりについてまとめるとともに、自然災害から暮らしを守るために、地域で協力してできることや自分にできることを考えられるようにする。

(2) 本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本時は、わが国の自然災害や、それらに対する国や都道府県の対策や事業について、今までの学

<p>10</p>	<p>C: 県や市が、防災マップをつくっている。 C: 地域で協力して、防災マップをつくっている人たちもいる。 C: 地域で防災訓練が行われている。 C: 私たちも、地域の防災訓練に参加することができる。 C: 災害時に必要なものを用意しておくこともできる。 ○ベン図の中心(「自助」「共助」「公助」が重なっている部分)にふさわしい言葉を考え、話し合う。 T: いくつか対策を出して、分類することもできました。それでは、円が重なった中心の部分には、どのような言葉がふさわしいですか。グループで話し合って、重なった部分に、タイトルをつけましょう。 C: ぼくは「防災」がいいと思います。自助や公助、共助の全てがそろって、防災になると思ったからです。 C: 私は、「減災」がふさわしいと思います。理由は、それぞれの活動が行われることで、減災につながると思ったからです。 T: 話し合ったタイトルを発表してください。 C: ぼくたちのグループでは「防災」がふさわしいということになりました。防災には、自助の取り組みも、共助、公助の取り組みも含まれていると思ったからです。</p>	<p>◇いくつかの対策を分類し、まとめられた児童には、図の中心にふさわしいタイトルを考えさせるようにする。 ◇ベン図から、「防災・減災」のためには、「自助・共助・公助」のそれぞれが必要であることを捉えさせるようにする。 ◆自然災害から暮らしを守るための取り組みについて、調べたことや自分にできることを図にまとめ、自分の考えを表現している。 (思・判・表/ベン図, ノート)</p>
<p>10</p>	<p>○学習問題のこたえを考え、まとめる。 T: 本時の課題は、学習問題のこたえを考えることでした。それでは、ベン図や友達の考えを参考にして、まとめていきましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習問題のこたえ (自然災害からくらしを守るために,) 国や県が避難タワーや堤防をつくったり、地域の人たちが一緒に避難訓練などをしたりして、防災や減災の取り組みが行われている。</p> </div> <p>5 T: 最後に、学習を通して、考えたことや感じたことの振り返りをしましょう。 C: 防災や減災のためには、自助も大切だから、自分も訓練などに参加して、備えなければいけないと思った。 C: 自分や家族のことも考え、災害が起きたときに、自分にもできることを考えておこうと思った。</p>	<p>◆自然災害に備えるうえで大事なことを振り返り、自分にできる防災や減災の取り組みについて考えようとしている。 (関・意・態/ノート)</p>